# Vent

音楽教育ヴァン vol.43

巻頭インタヴュー

1 松任谷由実　2 野村萬斎

大切な14歳の時間（とき）　「現在」という最先端を生きる

特集

新しい『中学生の音楽』『中学生の器楽』のご紹介

［中学校用教科書 内容解説資料］

レポート

4校合同合唱コンクール

特別企画

ベートーヴェン生誕250周年に寄せて（西原 稔）

参考楽譜

リコーダー二重奏『浜辺の歌』

（作曲：成田為三／編曲：八木澤教司）

KYO-GEI

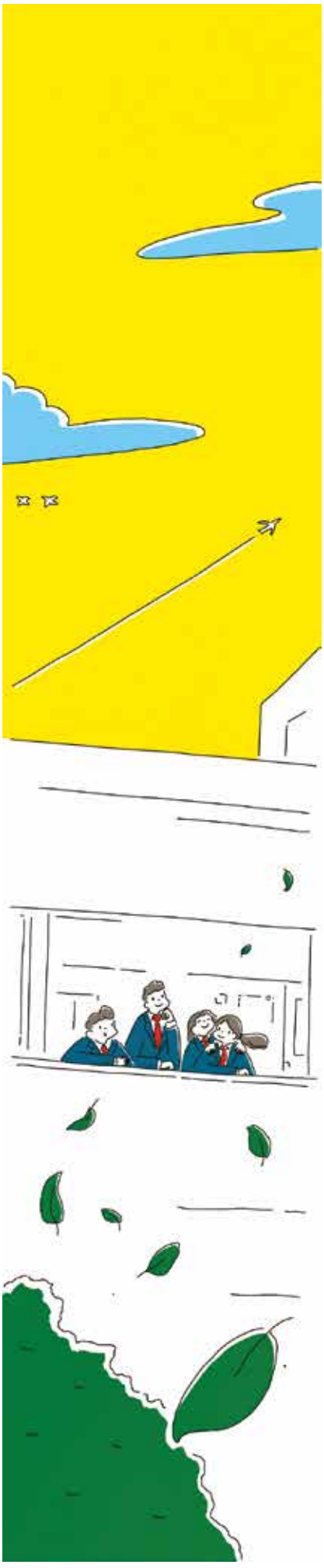
# 静けさの中で

令和２年３月、新型コロナウイルスの影響で街中の賑わいが消え、静けさに包まれる空間が広がっています。

フランスの思想家B.パスカルは「人間は考える葦である」という言葉を残し、自然界における人間の弱さを一本の葦に例えました。新型コロナウイルスによる世界の混乱ぶりは、人間の弱さを露呈しています。しかし、この言葉は、人間の偉大さも表しています。自然界の中で、人間は思考することができる唯一の存在であるというのです。人間は、いかなる時代においても考え続けることで進化し、数々の困難を乗り越えてきました。

令和２年４月、小学校では新学習指導要領が全面実施されます。予測困難な時代と言われる中で、自ら学び、自ら考え、どう動くかという力の育成が一層重視されます。私たちも、想定外の場面に対応できるよう、これまでの発想を超えた思考力が必要となりそうです。当面、音楽科では、たとえば歌唱の活動に影響が出てくる学校があるかもしれません。しかし、今だからこそ、音楽がもつ多様な力に目を向け、その教育の可能性を引き出すチャンスです。この静けさの中で、一歩立ち止まって考えることが、新しい何かを生み出すかもしれません。

齊藤忠彦（信州大学 教授）



## Contents


03 巻頭インタヴュー１
松任谷由実（シンガーソングライター）

06 巻頭インタヴュー２
野村萬斎（狂言師）

09 特集
新しい『中学生の音楽』『中学生の器楽』のご紹介
［中学校用教科書 内容解説資料］

20 授業者に訊く１
ミマス（作詞・作曲家／音楽ユニット「アクアマリン」メンバー）
西山俊彦（相模原市立谷口台小学校 校長）
井上巌太、川口桃奈、松元博一、渡邉 恵（相模原市立谷口台小学校 教諭）

25 授業者に訊く２
山崎朋子（調布市立第五中学校 教諭）

30 レポート
４校合同合唱コンクール
小規模校ならではの取り組み

32 特別企画
ベートーヴェン生誕250周年に寄せて（西原 稔）

36 Kyogei Presents
音楽診断 あなたのタイプは？
［第８回］ベートーヴェンのおすすめ名曲編（監修・解説：西原 稔）

38 Information

40 参考楽譜
リコーダー二重奏『浜辺の歌』

42 エッセイ
新・音から広がる世界［第３回］藤原道山


＊本誌に記載されている職名は令和２年３月現在のものです。

巻頭インタヴュー1

# 大切な14歳の時間

シンガーソングライター **松任谷由実**

聞き手 ヴァン編集部

今号の巻頭は、新しい『中学生の音楽』の口絵にご登場いただいたお二人のインタヴュー記事です。まずご紹介するのは日本を代表するシンガーソングライター、松任谷由実さん。幅広い世代から支持を得て「ユーミン」の愛称でおなじみの松任谷さんに、中学生だった頃を振り返りながら、長年大切にしている思いについて語っていただきました。

撮影：田中聖太郎

## 原点は14歳

**Vent（以下、V）：**改訂される教科書の巻頭口絵ページにご協力いただき、ありがとうございました。由実さんが中学校に入学された頃の思い出はありますか？

**松任谷：**まず思い出すのは、パイプオルガンとの出会いです。私はキリスト教系の学校に入学したのですが、校内にパイプオルガンが設置されていて、入学後すぐの礼拝でバッハの『トッカータとフーガ ニ短調』を聴きました。パイプオルガンって、教会自体が楽器なのですよね。床や天井からの振動に包まれて、感応して涙がばーっと出てきてしまいました。そのとき、その音が私の声にプリントされて、パイプオルガンみたいな声になっちゃったと思っています（笑）。この体験によって、私の音楽は教会音楽の影響を受けていると思います。

**V：**荒井由実時代の『翳（かげ）りゆく部屋』は、パイプオルガンの前奏とピアノから、孤高な雰囲気を感じていました。

**松任谷：**孤高ですか！　有り難い表現ですね。『翳りゆく部屋』の原型は、中学２年生のときにつくったものです。「自分でも曲をつくれるかもしれない、ロックができるかもしれない」と考えたのが、中学２年生でしたから。

**V：**作曲を始められたのは、中学２年生だったのですか？

**松任谷：**はい。当時私が弾けた楽器はキーボードだったので、ピアノ・ロックが好きでした。とりわけ感銘を受けたのがプロコル・ハルム*というグループで、その頃はブリティッシュ・ロックをたくさん聴いていました。デビューアルバムの『ひこうき雲』は、プロコル・ハルムの影響が強いです。

**V：**由実さんがご自身の14歳という時代を振り返るとき、どのようなことを感じますか？

**松任谷：**振り返るというよりも、私の中には14歳の自分がずっと存在していますね。14歳の時間は私の原点です。中学１年生では環境が急激に変わり、なじむことで精いっぱいでした。２年生になると少し見晴らしがよくなって、友達もできる。でも思春期ですから、好奇心旺盛に過ごし、友達と笑い転げていたかと思うと、グレーのトンネルみたいな自分の世界に入り込んでしまう。そんなふうに、明るい場所と暗い場所を行ったり来たりした時間は13歳でも15歳でもなく、14歳ならではだと思うのです。私自身、今でもその頃の自分がときどき顔を出します。

## 歌で描くのは、匂いと皮膚感覚

**V：**音楽でキャリアを積み重ねてこられた由実さんですが、詩人や小説家、コピーライター、デザイナー、映画監督……さまざまな職業にも就くことができたのでは思います。しかし、由実さんはずっと音楽から離れることなく、シンガーソングライターとして歌を続けてこられました。

**松任谷：**今言っていただいた職業、全て含まれているんです、シンガーソングライターに。詩を書くときは映画監督になったかのように、カメラを動かしてコンテをつなげる作業が必要です。音楽にするために時間の一瞬を切り取ることは、フォトグラファーのようでありますし、それを言葉にするのはコピーライターのようでもあります。

**V：**１つの曲を生み出すために、さまざまな作業が詰まっているのですね。

**松任谷：**音楽は「時間をデザインすること」であり、それが他の芸術にはない点だと考えています。もし私が他の表現の道へと進んでいたなら、少し物足りなかったかもしれません。

**V：**選ぶべくして選んだのが、音楽だったのですね。歌をつくるときには、どのようなことを意識されていますか？

**松任谷：**匂いや湿度の皮膚感覚を描くことを、いちばん大切にしています。音楽の中で、具体的なストーリーをつくろうとは思っていません。「その匂いを嗅いだことがある」「その雨に触れたことがある」、そんなふうに感じてもらえる歌が描ければ、聴いた方それぞれのストーリーがおのずと浮かび上がり、リアルな体験として実感していただけるのではと思うのです。

**V：**由実さんのつくった多くの歌は、それぞれキャラクター性の異なる、さまざまな世界観が描かれています。

**松任谷：**私、同じところにとどまっていると飽きちゃうんですよ（笑）。だから歌もいろいろなジャンルを取り込んでいます。

* Procol Harum（プロコル・ハルム）
1960～70年代に活動したイギリスのロックバンド。クラシックやブルースの要素を取り入れ、ピアノとオルガンのツイン・キーボードの編成が特徴。代表曲に『青い影』がある。1991年に再結成。2012年には松任谷由実さんとジョイントライブを行った。写真は1967年頃。

Yumi Matsutoya

# 音楽は、いつでもタイムカプセル。誰もがそこに乗って、旅ができるのです。

○ 松任谷由実(まつとうや・ゆみ)
日本を代表するシンガーソングライター。1972年、荒井由実の名でデビューし、1976年の結婚と同時に松任谷由実に改名。常に第一線で音楽活動を続けている。2018年にはデビュー45周年を記念した3枚組ベストアルバム『ユーミンからの、恋のうた。』がリリースされた。
現在、松任谷由実によるインターネットラジオ「松任谷由実はじめました(通称:うそラジオ)」が放送されている。毎週金曜日更新(金曜午前11時〜4週間後の金曜午前11時まで、4週間のオンエア)。

クラシカル、アメリカンポップス、和のテイストのものもあれば、エスニックなものも。旅先での発見が、音楽につながることもあります。

**V:** さまざまな文化が由実さんの音楽に生きているのですね。由実さんご自身は大学で日本画を専攻されています。またご実家は呉服屋さんとのことですが、日本文化についてどのようにお考えですか?

**松任谷:** とてもユニークな文化だと思います。移りゆくものの中にさまざまな表情があり、ミニマルに現れている。私の表現にも、そのような日本文化が入っていて、洋楽的なアプローチをしても、どこかに「やっぱり日本人なんだ」と感じる部分が出ています。

**V:** あらためてお聞きしたいのですが、由実さんにとって音楽とは、どのようなものなのでしょう?

**松任谷:** 音楽は、いつでもタイムカプセルです。行き先は、遠い時代かもしれないし、1年前、1週間後かもしれない。必ず誰もがそこに乗って、旅ができるのです。そんないろいろな時間を行き来することができるところが、音楽の魅力だと感じています。抽象的すぎますかね?

**V:** いいえ、とてもすてきです!

## 伝えたい大切なこと

**V:** 話題を変え、ちょっと気後れする質問なのですが、人が生きていくうえではどのようなことが大切だとお考えですか?

**松任谷:** 「純粋な心をもち続けること」と、「人と違うことを恐れないこと」。もしも何かに感動したのなら、その気持ちを素直に受け止めることが大切です。人の意見を聞く前に、自分がどう感じるかを大切にしてほしい。それから、失恋は人の成長に大切なことだと思いますね。

**V:** 恋愛ではなく、失恋が大切なのですか?

**松任谷:** そうです。10代の年頃は、失恋することも少なくないでしょう。失恋すると、必ず自分自身が変わります。そのとき落ち込んだとしても、もう一度外に出て新しい視点で物事を見てみれば、新しい何かに出会う。新しい失恋もある(笑)。失恋から「この世には自分の望みがかなわないことがある」「人の心はコントロールできない」という感覚を得ることは人にとって大切ですし、他者を慮る心、想像力を育みます。

**V:** 由実さんがくじけそうなときやつらいとき、どのように乗り越えてこられましたか?

**松任谷:** 私、簡単にくじけないんです(笑)。古今東西のすばらしい才能に常に触れていると、自分はまだまだだと思えるんです。ふだんから私は意識的に「よいもの」に触れるように心がけていて、先人が「よいもの」として私たちに受け継ぎ伝えてきた絵画、オペラ、焼き物、文学……何でもいいからそれに接してみます。本物に意識して触れていくと、そのうち偽物も分かってきますから。そうやって、自分が磨かれていくんじゃないかなと思います。

**V:** 本物に常に触れることは大事なのですね。最後の質問になりますが、14歳の子どもたちには、今の時間をどのように生きてほしいと思いますか?

**松任谷:** うーん……、難しいですね。私が14歳だった頃とは世界が激変していますし、その子によって環境もさまざまですから。ただ、回り道にこそ宝物があると思うんです。私自身、回り道をしがちなところがあって、例えばインターネットで何かを調べても、別の気になることを見つけたら、実際その場所に行ってしまうのです。すると、またさらに違う何かに出会って……。すぐに目的にたどり着こうとは思いません。世界はこれからも変わっていきますが、純粋な心さえもっていれば、どんなことにも立ち向かうことができるはず。回り道をすることがあったとしても、その過程を楽しんでほしいなと思います。

# MANSAI NOMURA

分からないことを喜びましょう。
分からないことを一つの起点にしましょう。

巻頭インタヴュー2

# 「現在」という最先端を生きる

狂言師 野村萬斎

**次にご紹介するのは、野村萬斎さんです。狂言師でありながら、映画やテレビなどさまざまなフィールドで活躍する萬斎さんは、東京オリンピック・パラリンピック開閉会式の総合統括も務めます。本インタヴューでは、狂言や日本文化について、お考えを語っていただきました。**

聞き手 市川かおり（株式会社教育芸術社 代表取締役社長）

撮影：島崎信一

## 時間と空間をエンターテインする

**市川（以下、I）：**以前に「野村狂言座」（演目：『棒縛』『楽阿弥』『鈍太郎』）を拝見しました。能の形式を模した舞狂言『楽阿弥』は、野村万作さん、野村萬斎さん、野村裕基さんの三代が務められ、すばらしかったです。ただ、少し難しさも感じました……。狂言といえば、直接的なおもしろさを感じることが多いと思っていましたが、『楽阿弥』は独特な世界ですね。

**萬斎：**そうですね。まずこのストーリーの「尺八の吹き死にをする」という発想自体がよく分からないですよね。楽阿弥は音楽が好きで尺八を吹いていたのだけど、周りに受け入れられなくて、尺八の製法のように、曲げられたり、ねじられたりして死を迎え、地獄のようなところに落ちてしまう。さまざまな解釈や考え方ができますので、僕自身も今ようやく解題でき

あらすじ

「第84回野村狂言座」（2018年12月6〜7日）プログラムより

『棒縛』……二人の家来が、留守中に酒蔵の酒を盗み飲んでいると知った主人は、太郎冠者を棒に、次郎冠者を後ろ手に縛って出かけてしまう。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについに成功する。酔った二人が謡えや舞えやと大騒ぎしていると…。

『楽阿弥』……伊勢の国 別保松原に着いた僧は、松の木にたくさんの尺八がかけられているのを見る。辺りの人にいわれを尋ねると、昔そこに住んでいた楽阿弥陀仏という人が尺八の「吹き死に」をしたので、それを葬った塚で、今日はちょうど命日だと語る。僧が尺八を吹いて弔うと、楽阿弥陀仏の幽霊が現れ、僧とともに尺八を吹き始める。

『鈍太郎』……三年ぶりに西国から帰京した鈍太郎は、早速妻と女を尋ねるが、久しく音信すらなかったため、二人とも本物の鈍太郎と信じない。落胆した鈍太郎は、出家してひとり修行の旅に出ることを決心する。ところが、後から真実を知った妻と女が、あわてて鈍太郎に出家を思いとどまるよう頼むと、鈍太郎は都合のいい提案をし始めて…。

ている感じです。

**I**：舞台に立っているときに、ご自身と観客の一体感は感じられるものでしょうか？

**萬斎**：『棒縛』や『鈍太郎』のような演目であれば、一体感を感じることはよくあります。観客と演者のコミュニケーションでもありますが、「時空を操る」ことでもあるんですよね。それは我々の使命であり、お客さんと共有したい最も大切な感覚です。「時間と空間をエンターテインする」と言ってもいいかもしれません。独特の時間・空間をつくり出すことができれば、どの世界に行っても通用するんじゃないかと思います。

## 「型」の伝承はデジタルなこと

**I**：万作さん、萬斎さん、裕基さんの三代が一つの舞台で演じられているのを拝見したときに、伝統をつないでいく様子を目の当たりにした気がしました。「伝統の継承」ということについてはどのようにお考えでしょうか？

**萬斎**：芸を伝えることは、自分の芸としてもっているものを弟子にコピーして自分の分身をつくることです。基礎的な技術を身に付けるために師匠に言われた通りのことをまずやる。芸のプログラムが体に組み込まれないと、狂言師としては機能していない状態ですからね。個性は一度殺しているかもしれませんが、そのうちだんだん個性が出てきて、弟子は弟子の芸になっていくのでしょう。

**I**：まずは「まねる」ということでしょうか？

**萬斎**：はい。まさしく「まねる」ことから始めます。コンピュータで例えるなら、まずは師匠と同じソフトウェアを共有しながら、アップデートしていく。ある程度成長すると、自分なりの最新バージョンへと変化するようになります。

**I**：アナログの世界という印象がありましたが、実はデジタルな世界ですね。

**萬斎**：「型」を伝承するのは、デジタルなことなんです。実は「型」とは「つくっていくもの」。「型にハマる」とは、自分の機能がその領域にまで上がることだと思います。「型」を確実に身に付ければ、それだけ精度の高いコンピュータになることができる。僕は自分の本で「狂言サイボーグ」という言い方をしていますが、「型」の使い方まで分かってきたときに、まさしく「時間や空間を操る」ことができるようになります。

## 学びの根源は「分かりたい」と思うこと

**I**：現代の子どもたちが古典芸能を理解するにはさまざまな難しさがあると思いますが、萬斎さんは狂言師としてどのようなことを子どもたちに伝えたいですか？

**萬斎**：人間は昔からそんなに変わらない、ということですね。人間は、人間の生きている様子をさまざまな表現方法で活写してきて、それが時代を超え、文化を超え、ときに言語を超えて楽しむ。私たちは皆、祖先が代々つないできた線の最先端に

『棒縛』
撮影：政川慎治

ある「現在」という点に生きている、という意識をもってほしいです。「分からないからノーサンキュー」ではなく、「分からないことを喜びましょう。分からないことを一つの起点にしましょう」と伝えたいですね。好奇心をもって「これを分かりたい」と思うことが学びの根源じゃないですか？ 結局のところ、おもしろいか、おもしろくないか、それだけですよね。そういう意味でいうと、大人よりも子どものほうが正直なので、子ども相手は手が抜けない。大人は説明すれば納得してくれますが、子どもはおもしろくなければ寝てしまったり、別のことを始めてしまったり。さらに発達の時期によっては、おもしろいだけでは、うまくいかないこともあります。

**I：**日頃、若い人たちの感覚を揺らすもの、将来どこかで花咲くようなものを与えたいと思っていますが、伝えることはなかなか難しいです。

**萬斎：**でも、根気よく見せていくうちにきっと何か感じ取ってもらえるのだと思います。「つまらない」と思ったときも、なんでこんなにつまらないんだろうと考えることで、むしろそのおもしろさ、奥の深さに気付かされることもあるのでは。例えば、リズムがゆっくりすぎるけれど、どうしてゆっくりなんだろうとか。そこから、拍に伸び縮みがあるという日本の身体感覚に気付くことだってできる。それがさらに「一本締め」のリズム感覚ともつながったりして。

**I：**日本人は欧米諸国の人たちと比べて、協調性ばかりで個性がないというようなことがいわれますが、萬斎さんはそのあたりをどのようにお考えでしょうか？

**萬斎：**「型」を使えば自動的に表現ができるデジタルなものがあるとするならば、社会で生きていくうえで必要最低限の「型」を教えずに個性を発揮しなさいと言っても、できないと思います。「型」をひたすら実践していくタイプの人もいれば、「型」を使って自由に遊びたがる人もいるし、それこそ個性ですよね。音楽の話をすると、ドレミの音でも「ドーレーミー」と「ドーーレーミー」と「ドーーーレーミー」と少しずらすだけで表情は変わっていきますよね。音符や音楽記号を覚えるのも重要ですが、まずは楽器をどんどん叩いてみて、叩き方によって音が変わることに気付くことも大切です。そして、もっときれいな音にするためにはどうするかを考えるようになれば、音符や音楽記号も必要になってくる。そのような流れが重要な気がします。

## 時代を超えて続く日本文化

**I：**さて、東京オリンピック・パラリンピック開閉会式の総合統括をされていますが、日本人の感性や表現力のポテンシャルにおいて、萬斎さんはどのようなところに注目なさっていますか？

**萬斎：**「生きていること」をみんなで謳歌するのがオリンピックではないかと考えています。あくまで「生」への讃歌でありますが、海外では「生」を厚塗りしたくなる傾向にあるような気がします。しかし、日本には向いていないことですから、逆のベクトルが必要になってきます。10の幅をつくるとしても、０から10ではなく、マイナス５からプラス５で同じ幅をつくる。少ないエネルギーで豊かに幅を感じさせることが日本の感性にはあります。オリンピックは、「生」のお祭りでもありますが、「生」をありがたく喜ぶためにも、「死」を土台にする。我々が生きている今現在は、「死」を乗り越えた上にあることを訴えたいと思っています。それから、現代の日本の音楽を見ると、雅楽があって能楽があって、歌舞伎や浄瑠璃があって、そしてJ-POPまで、それぞれが共存しています。先行芸能を否定しないで、すだれ状に伝えていくのも日本人の特性ですよね。世界を見てみると、過去の文化を否定することから始めるので、当時どのように行われていたかは分からなくなってしまう。日本は600年、700年前のものが、ほぼそのまま、もちろん時代によって変わっていないわけではないですが、続いているわけです。「他のものを否定しないで自分たちがいる」こと、これは今とても重要なことではないかと考えています。そういう意味でいうと、狂言の「このあたりのものでござる」というセリフには、どんな主義・主張があっても、みんなこのあたりのもの、人間として、または生物として、地球上の物体として、というような視点をもっているわけで、それはとても重要ではないかと思っています。

○ 野村萬斎（のむら・まんさい）
祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。1994年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞等、受賞多数。「狂言ござる乃座」主宰。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦－山月記・名人伝－』『国盗人』など古典の技法を駆使した作品の演出、ＮＨＫ『にほんごであそぼ』に出演するなど幅広く活躍している。

特集

# 新しい『中学生の音楽』『中学生の器楽』のご紹介

［中学校用教科書 内容解説資料］

本号のヴァンは、令和３年度から使用される教科書、新しい『中学生の音楽』『中学生の器楽』と同じ紙で製作しました。ぜひ実際の手触りや質感、色などをお確かめください。

表紙(P.１・２・43・44)…「口絵」の部分で使われる紙
表紙以外(P.３～42)…「本文」で使われる紙

**令和３年度から中学校用教科書『中学生の音楽』『中学生の器楽』が改訂されます。**
**教育芸術社では、音楽科の果たす役割を考えながら、今日的な教育の課題にも対応する、新しい時代にふさわしい教科書を目指して編集してまいりました。**

- 中学生の音楽
  - ・音楽科で身に付ける「三つの資質・能力」
  - ・音楽科で実現する「主体的・対話的で深い学び」
  - ・「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる」
- 中学生の器楽
- 新曲紹介

本特集では、文中の煩雑さを避けるため、便宜上『中学生の音楽２・３上』は２年、『中学生の音楽２・３下』は３年と表記しています。

新しい教科書のポイント①

# 中学生の音楽

・音楽科で身に付ける「三つの資質・能力」

## 義務教育９年間の系統的な学びで、「資質・能力」を育みます

▶ 系統的な題材構成により、学びが積み重なります。
生徒の発達段階に応じて三つの資質・能力を無理なく育むことができるよう、小学校、中学校９年間の系統性と一貫性を重視して学習内容を配列しました。

※小学校は『小学生の音楽』（令和２年度版）における「題材名」を、中学校は『中学生の音楽』における教材の「学習目標」を示しています。
※小学校における鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏に関する題材は、『中学生の器楽』の内容につながります。

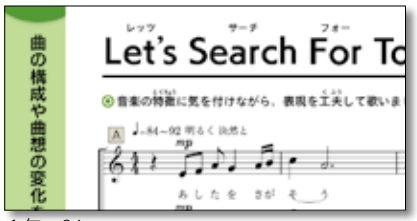
詳細は教育芸術社のホームページでもご覧になれます。
https://www.kyogei.co.jp/

カリキュラムマネジメントの充実にも役立ちます。

### ユニバーサルデザイン（UD）に向けた取り組み

#### UDフォントを全編に使用

▶ UDフォントを全体の９割以上に使用しています。タイトルや文章、楽譜中の歌詞に使用することで、可読性、可視性を高めました。




1年 p.34

#### 特別支援教育の視点に立った配慮

▶ 歌詞や文章を写真中に入れるときには、無地の部分に配置したり白文字を使用したりすることで、読みやすさを確保しました。全体にレイアウトや囲みの形を工夫し、視認性の高い紙面構成となっています。

2年 p.18・19

## 音楽科で身に付けられる「資質・能力」が一目で分かります

▶学習指導要領に示された三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を示した「学びの地図」となる内容を、目次に続くページに示しました。

資質・能力の三つの柱

〔共通事項〕に示されている「音楽を形づくっている要素」

1年 p.8・9

**先生のご参考として**
〈使用例〉・１年間の学習指導計画を立てるとき
・評価規準を考えるとき

**生徒の学習において**
・各教材を通して自分がどのような音楽の力を身に付けられるのかを確認するとき

**１年間で学習する内容が分かる「学びの地図」。**

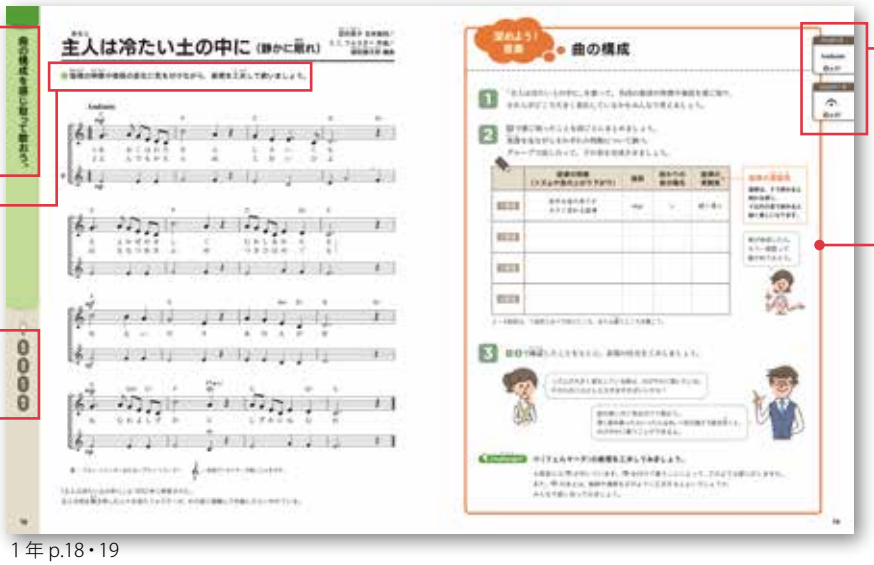
## 分かりやすい紙面構成で、確実な学びをサポートします

▶音楽科における三つの資質・能力を確実に育成できるよう、「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」を各教材に設定し、それらが一目で分かるように示しています。

### 学習目標
「何を学ぶか」を明示し、意識することにより、生徒が主体的に学習に取り組むことができます。

### 活動文
学習目標に迫るための具体的な学習活動を例示。

### 音楽を形づくっている要素
「音楽的な見方・考え方」を働かせる際の大切な視点となる「音楽を形づくっている要素」を各教材に例示。
アイコンではなく〔共通事項〕に示された文言で記載し、より充実した言語活動につなげます。




1年 p.18・19

### 用語や記号など
学習指導要領の〔共通事項〕に示されている用語や記号などを、新出時に大きく取り上げています。

### 「深めよう！音楽」
主体的・対話的で深い学びを実現する新コーナーです。
手順に沿って学習を進めることで、音楽科における資質・能力を確実に身に付けることができます。

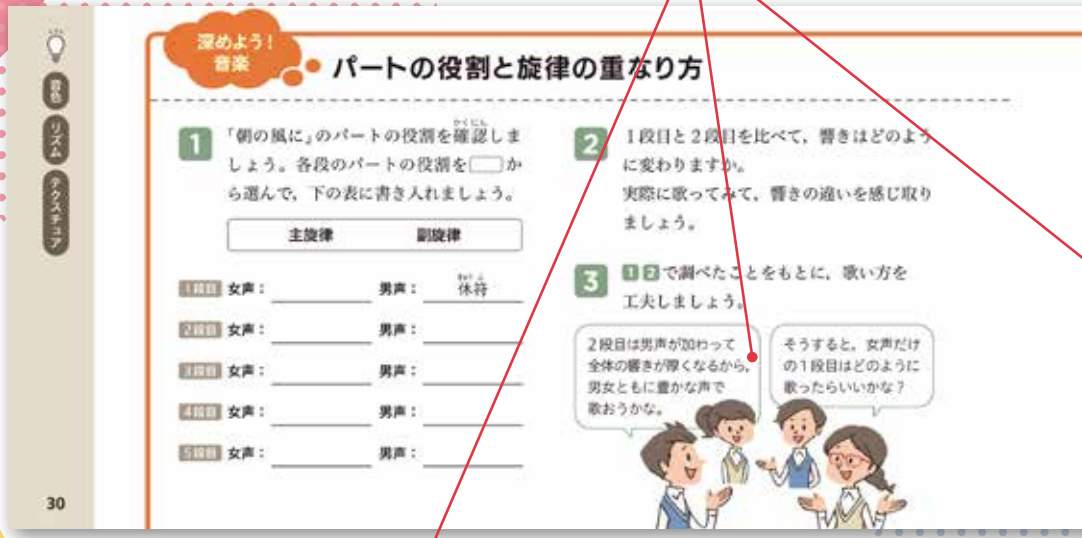
# 生徒自身が学びを自覚できるように、手立てを充実させました

▶ 教科書の手順に沿って学習を進めることで、主体的・対話的で深い学びを実現することができます。また、生徒が自分の考えをワークシートに書き込み、整理しながら学習を進めることができます。

## 歌唱

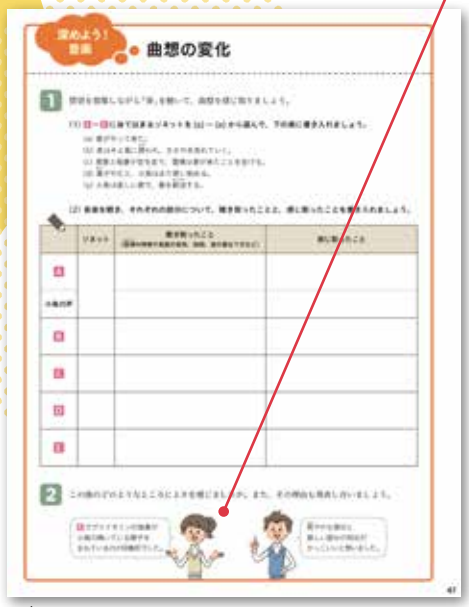
「深めよう！音楽」で、主体的・対話的で深い学びを実現します。

どのようなことを話し合ったらよいのかを例示し、より深まりのある言語活動や協働的な学びを促します。




1年 p.30・31

## 鑑賞




1年 p.47

鑑賞教材にも「深めよう！音楽」を配置。「聴き取ったこと（知覚）」と「感じ取ったこと（感受）」をワークシートに書き込んで整理し、深い理解へと導きます。

## 創作

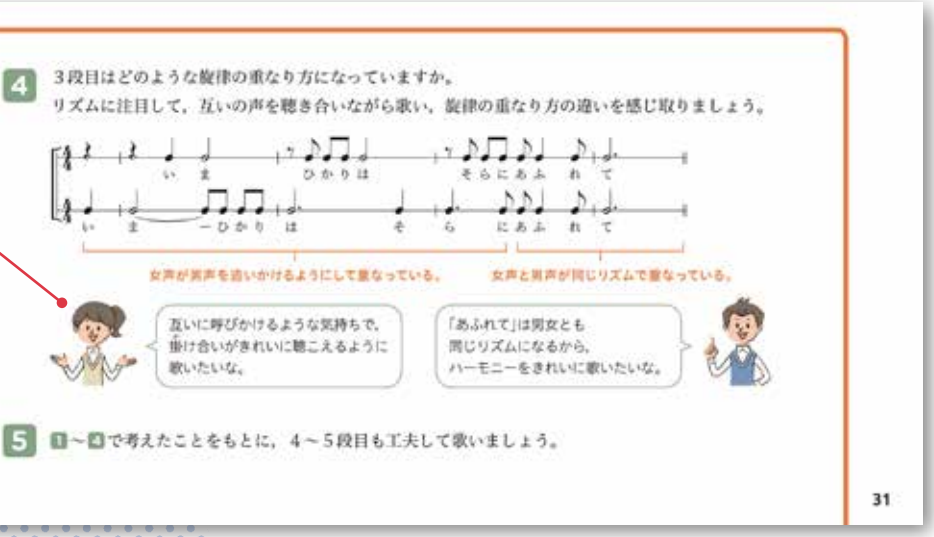
創作教材では、より丁寧に手順を示すことで、生徒も先生も無理なく学習を進めることができるよう配慮しました。

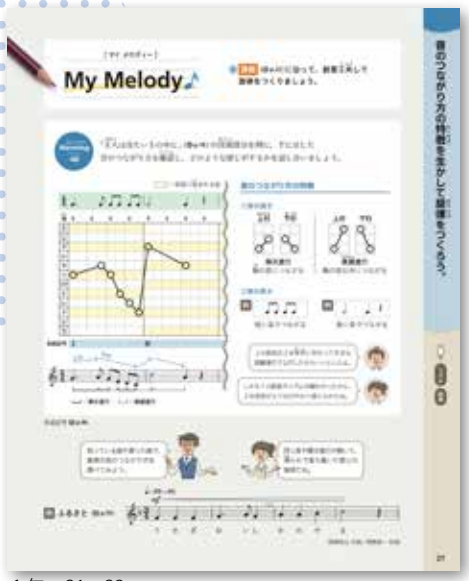
# 見方・考え方を働かせて、生徒が自ら課題を見付けられる学習を充実させました

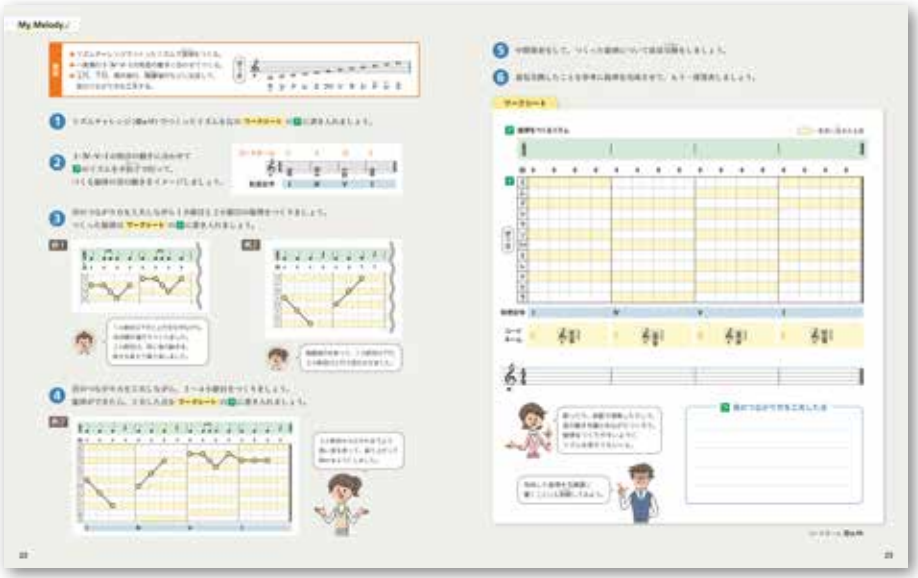
▶演奏者からのアドヴァイスを紹介したり、体験活動を取り入れたりするなど、様々な角度から主体的・対話的で深い学びをサポートし、実感を伴った理解を促します。

3年 p.48

2年 p.50



1年 p.21〜23

新しい教科書のポイント③

# 中学生の音楽

・「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる」

## 郷土の音楽文化を尊重する態度を育みます

▶ 生徒が興味・関心をもって自分の住む地域の文化に親しむことができるよう、日本各地に伝わる民謡、祭りや芸能を教材として取り上げるとともに、中学生が郷土の祭りや芸能の担い手として活躍している様子を紹介しています。

3年 p.54・55

2年 p.69

## 我が国の音楽文化を尊重する態度を育みます

▶ ３年間を通して、我が国の様々な伝統音楽、伝統芸能を取り上げました。自国の文化に対する誇りをもつことで、グローバルな時代に対応する力を育むことができます。

2年 p.56・57

3年 p.40・41

## 生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育みます

▶ 在学中、そして卒業後も様々な音楽と出会ってほしいという願いをこめて、クラシック音楽やポピュラー音楽など多彩なジャンルの作品を紹介する資料を掲載しています。

# 音楽の学習を通して社会とつながります

▶音や音楽が、生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかを、生徒が意識的に考えるページを新設しました。

## 生活や社会の中の音楽

3年 p.68・69

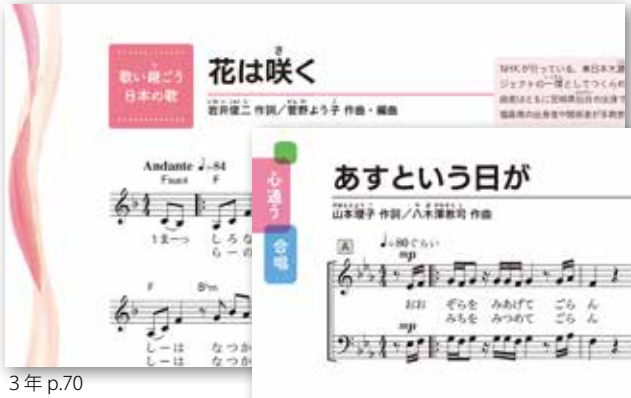
### SDGsの視点で考える

3年生ではSDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)として定められた17の目標から「4：質の高い教育をみんなに」を取り上げ、世界各地で音楽教育を支える「青年海外協力隊員」や支援スタッフとして働く日本人の活動を紹介しています。

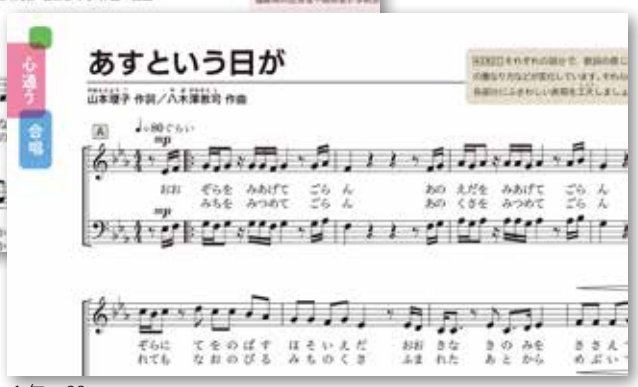
日本とは全く違う環境で音楽教育を受ける世界の子どもたちに思いをはせ、現地の子どもたちにとって、音楽がどのようなもので、どのような役割を果たすのかを考えることで、国際理解や道徳的な心情を養う一助となることを願っています。

## 震災復興支援

震災からの復興を願って今も歌い継がれる楽曲を掲載しました。音楽のもつ、人々の思いをつないだり誰かを勇気付けたりする力を、歌を通して実感します。




3年 p.70




1年 p.88

# 『中学生の器楽』のリニューアルポイントを紹介します

- ☞ ソプラノ リコーダーの扱いが充実。
- ☞ 打楽器の種類を追加（カホン／ジェンベ／ドラムセット）。
- ☞ 箏による創作を一新。
- ☞ 単旋律の補助教材「楽器でMelody」を新設。
- ☞ 魅力的なアンサンブル曲を掲載。

新曲　『I Got Rhythm』（G.ガーシュイン 作曲／佐井孝彰 編曲）
アルト リコーダー＋低音楽器＋打楽器
『笑点のテーマ』（中村八大 作曲／赤羽耕史郎 編曲）
ソプラノ リコーダー＋ギター または アルト リコーダー＋ギター
『One Week』（滝口亮介 作曲）ボディー パーカッション　ほか

## 打楽器の種類を追加

器楽 p.74

## 新曲『One Week』

演奏動画より

3パートにわかれて演奏します。

もも打ちの細かいリズムや、半拍遅れで似たリズムが重なるおもしろさが楽しめます。

『One Week』の演奏動画はこちらからご覧ください。

https://www.kyogei.co.jp/data_room/vent/vol43_r3jhs_shinkyoku.html#oneweek

# 三つの資質・能力を、分かりやすい紙面構成で身に付けます

▶音楽科における三つの資質・能力を確実に育成できるよう、「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」を各教材に設定し、一目で分かるように示しています。これらの学習を通して、資質・能力や音楽的な見方・考え方を身に付けることができます。

## 学習目標

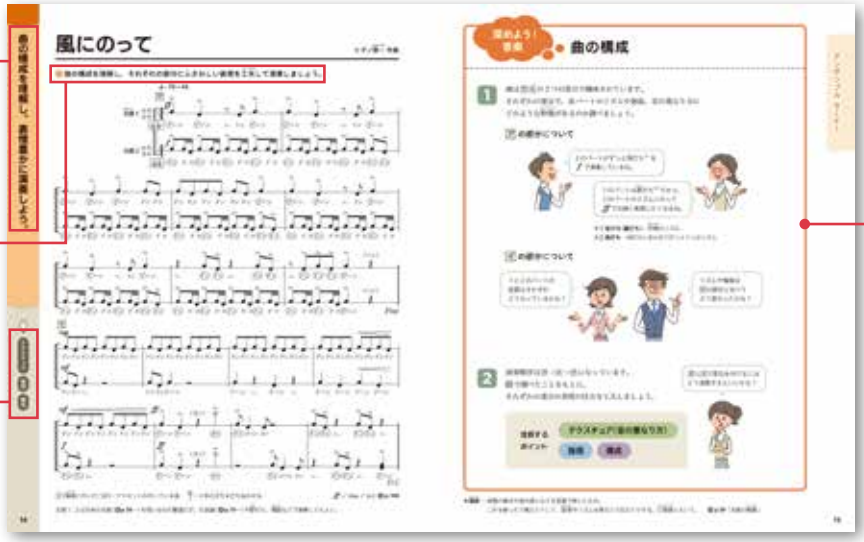
「何を学ぶか」を明示し、意識することにより、生徒が主体的に学習に取り組むことができます。

## 活動文

学習目標に迫るための具体的な学習活動を例示。

## 音楽を形づくっている要素

「音楽的な見方・考え方」を働かせる際の大切な視点となる「音楽を形づくっている要素」を各教材に例示。
アイコンではなく〔共通事項〕に示された文言で記載し、より充実した言語活動につなげます。




器楽 p.14・15

## 「深めよう！ 音楽」

主体的・対話的で深い学びを実現する新コーナーです。
具体的な手順と、キャラクターによる深い学びを引き出します。

# 主体的・対話的で深い学びを実現する手立てを示しました

▶学習の取り組み方を分かりやすく示した「深めよう！音楽」をはじめ、和楽器の表現をより深めるための唱歌（しょうが）の活動、演奏者からのメッセージなど、深い学びを実現するための手立てを充実させました。

唱 歌

器楽 p.46

1年p.56「六段の調」の鑑賞との関連を図ることができます。

器楽
⇵
鑑賞

# 器楽の学習を通して社会とつながります

▶『中学生の器楽』も『中学生の音楽』と同様、音楽そのものや、生活や社会の中の音や音楽について考える内容を幅広く取り入れています。

器楽 p.4・5

音楽ってなんだろう？

同世代の音楽活動

器楽 p.107

新しい教科書のポイント⑤

# 新曲紹介

## 演奏者からのメッセージ

**本特集の最後は、『中学生の音楽』に掲載された新曲をご紹介します。範唱やパート練習用の音源収録にご協力いただいた演奏者の皆さんに、曲の特徴や魅力について語っていただきました。**

本ページでご紹介した新曲はこちらからご試聴いただけます。

https://www.kyogei.co.jp/data_room/vent/vol43_r3jhs_shinkyoku.html

## 『その先へ』

山崎朋子（やまざきともこ） 作詞・作曲

1年 p.12・13 掲載

荒木俊雅（あらき・としまさ）

国立音楽大学音楽学部演奏学科声楽専修卒業。声楽を福井敬氏に師事。ヴォーカル・コンソート東京メンバー。二期会準会員。5月23日(土)福島復興祈念演奏会「カルミナ・ブラーナ」(練馬文化センター)にソリストとして、5月29日(金)二期会DAYSオペラ『光太夫』(サントリーホール)に磯吉役で出演予定。

**旋律がサビに向かって徐々に気持ちが高ぶっていくように作曲されていて、気付いたら自然に口ずさんでしまう曲です。変声期の男子が歌いやすい音域なのも魅力！**

**一瞬で過ぎ去ってしまう中学時代、その中で一生ものの友達ができる人もいるでしょう。自分一人では気持ちが負けて前に進むことができないときがあるかも……、でも友達がいるから一緒にその先へ進むことができる。そんな歌詞の内容を味わいながら、優しく歌ってもらえるとうれしいです。**

**荒木俊雅**
パート練習用音源演奏

## 『友達の友達』

御徒町凧（おかちまちかいと） 作詞
アベタカヒロ 作曲

1年 p.74・75 掲載

**中学生になったある日ふと抱いた、それまでとても親しくしていた友達といつの間にか疎遠になってしまった寂しさを思い出した作品です。伴奏パートには、うまく言葉にできず整理もできない心のうねりが表れているように思います。フレーズの流れを音楽的につかむためや、正確な音程を取るために歌詞の朗読練習をし、歌唱時には、子音の発音を明確にすることを心がけました。**

**生出悦子**
パート練習用音源演奏

生出悦子（おいで・えつこ）

東京音楽大学卒業、同大学声楽研究生修了、二期会オペラスタジオ研究生マスタークラス修了。日本クラシック音楽コンクール全国大会一般の部入選、全国童謡歌唱コンクール大人の部金賞と寛仁親王副牌受賞。オペラ、宗教曲、歌曲、声楽アンサンブルのコンサートに多数出演し、映画やテレビの音楽収録に参加している。二期会会員。

## 『Yes‼』

北方寛丈（きたかたひろたけ）
作詞・作曲

1年 p.76・77 掲載

斉藤博子（さいとう・ひろこ）

東京音楽大学大学院声楽専攻修了。小学生の頃から始めた合唱をきっかけに声楽の専門の勉強を始める。音楽大学卒業後は合唱団のヴォイストレーナーとして複数の合唱団に携わり、現在は歌を通し、福祉施設や老人福祉施設などに慰問演奏に行く他、合唱指導、また声楽家としても様々なオペラ、演奏会に出演活動中。

**この曲の魅力はズバリ、力強さだと思います！**

**歌い出しの歌詞のスケールの大きさとユニゾンで歌うことにより前に進むエネルギーを感じます。**

**次に出てくる旋律では自身の等身大の姿を表すような歌詞と、横に流れるようなフレーズに変わります。そこでは、自身の心への問いかけのような雰囲気で歌いました。サビでは、思い切り前に進み歌い、掛け声の「Yes！」では自身の確信と決意の表れのように声を出すと、本当に気持ちがいいです。**

**人には個性があります。この曲では、様々な個性の人が団結し声を合わせることができるのではないかと思います。ぜひ、この歌を通して、みんなで力を合わせて前進していく楽しみを感じてもらいたいです。**

**斉藤博子**
パート練習用音源演奏

横山琢哉（よこやま・たくや）

北海道生まれ。2007年、イタリアで行われた第４回マリエレ・ヴェントレ国際合唱指揮者コンクールで第２位を受賞。栗友会副音楽監督、合唱人集団「音楽樹」幹事、武蔵野音楽大学講師、日本合唱指揮者協会会員。公募した島根県西部の中高生による「いわみ合唱塾NEXT CHOIR」の指揮者を務めるなど、若い世代の指導にも尽力している。

## 『ハートのアンテナ』

杉本竜一（すぎもとりゅういち） 作詞・作曲
富澤 裕（とみざわ ゆたか） 編曲
２年 p.80・81 掲載

**これまでの中学生の合唱曲とは雰囲気の異なる、まさにロックと呼べる曲です。レコーディングでは、最初から最後まで全員がエネルギーを爆発させてノリを持続させました。そして「㋑ートの㋐ンテナひろげて～」のように、言葉の重心を意識して歌ったのを覚えています。皆さんもノリを大切に、全体を通して絶対に緩まず、しかし重くならずに歌い通してみてください。この曲にはクラシックの作法を当てはめず、ロックやポップスの様式感を参考にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。**

**横山琢哉（栗友会）**
範唱音源演奏

## 『忘れることなんかできない』

若松 歓（わかまつ かん） 作詞・作曲
３年 p.74～76 掲載

**この曲はラヴェル作曲の『ボレロ』のように徐々に盛り上がる曲で、クライマックスに向けた分かりやすい構造が何よりも魅力ですね。さらに、Aメロ、Bメロと続いてサビに進行する瞬間に、原調の変ホ長調を離れハ長調に転調する点で、聴く人はもちろん、歌い手の心を突き動かします。山の頂上にたどり着いたら、想像もしていなかった美しい景色が見えた感動、と例えたらよいでしょうか。前半の内省的な場面から、言葉の繰り返しや転調もあいまって、最後には感極まる。合唱だからこその表現を存分に味わえる名曲です！**

**相澤直人（あい混声合唱団 音楽監督）**
範唱音源演奏

あい混声合唱団

2007年発足。音楽監督である相澤直人と音楽的方向性を共にし、自主的で活発な演奏活動を展開。現代を生きる音楽家との強い連携が特徴であり、「作品の本質を捉え、曲が喜ぶ演奏をする」こと、「国内古今の合唱作品を魅力的に紹介する」ことを目標とする。第67回、第72回全日本合唱コンクール混声合唱の部銀賞受賞、他。

若松歓先生（中央）と、あい混声合唱団の皆さん。『忘れることなんかできない』収録後に撮影

## 『この町が好き』

才木奈津子（さいき なつこ） 作詞
横山潤子（よこやまじゅんこ） 作曲
３年 p.77～79 掲載

**明るいニ長調で書かれていますが、使われている和音は7thや9thの響きがふんだんに用いられて、ただ明るいだけでなく、若い心に宿るちょっとしたはかなさ、寂しさも併せもっています。小さい頃、自分が生まれ育ったこの町を出て、にぎやかな街に行くことに憧れた。でも今はこの自然豊かな町を見つめていたい。決して変わらないでほしい。4ビートにのって時には語るように、時には優しく包みこむように、特に「この町が好き」という歌詞の締めくくりを、チャーミングで印象的に歌うとよいと思います。**

**弓田真理子**
パート練習用音源演奏

弓田真理子（ゆみた・まりこ）

二期会会員。『魔笛』『蝶々夫人』『椿姫』他数多くのオペラに出演。ハンガリー・リスト音楽院ホールでの『第九』や、WIENER VIRTUOSENとの共演、2007年には皇居内桃華楽堂において、天皇皇后両陛下をはじめとする皇族方の御前で『蝶々夫人』のアリア等を歌った。17年から毎年リサイタルを開催している。

子どもたちに歌詞づくりの極意を伝授するミマスさん

# 授業者に訊く①

今回の「授業者に訊く」では、数々の人気楽曲の作詞・作曲を手掛けるお二人にご登場いただきます。最初にご紹介するのは、『COSMOS』『地球星歌～笑顔のために～』などを生み出した音楽ユニット「アクアマリン」のミマスさん。相模原市立谷口台小学校６年生の「総合的な学習の時間」におけるゲストティーチャーとして、歌詞づくりのアドヴァイスをされました。対談では、ミマスさんと校長先生、６年生を受けもつ先生方４名が、これまでの子どもたちの姿を振り返りながら今後の取り組みについて語り合いました。

**ミマス**（作詞・作曲家／「アクアマリン」メンバー）、**西山俊彦**（相模原市立谷口台小学校 校長）
**井上巌太、川口桃奈、松元博一、渡邉 恵**（ともに相模原市立谷口台小学校 教諭）

※取材は2019年12月に行われたものです。

**授業の流れ**

| 学習の内容、学習活動 | 導入 | 展開 | まとめ |
|---|---|---|---|
| | ○ めあての確認<br>○ ミマス先生のご紹介<br>○ ミマス先生のお話を聞く。<br>（作詞活動において大切にされていることなど） | ○ オリジナルソング『ツリー ～限りない道で～』のタイトル考案者がタイトルに込めた思いを発表する。<br>○ 歌詞の第１稿を披露する。<br>○ ミマス先生への質問コーナー<br>・ 歌詞づくりに関する疑問を解決する。<br>・ 困っていることについてアドヴァイスをいただく。<br>○ グループに分かれて歌詞の再検討を行う。<br>・ ミマス先生と教員が各グループを回りながら助言をする。 | ○ 本時の振り返りとミマス先生からの全体講評をいただく。 |

**本時の授業の位置付け**

この12年間、「家族・地域・学校・仲間たち」といった周りの人々に支えられて成長してきた子どもたち。小学校卒業を控え、支えてくださった人への感謝を自分たちらしく伝えたいという思いで、「総合的な学習の時間」の取り組みが始まりました。さまざまなアイディアが出てきた中、「自分たちは歌という表現方法をもっているから、オリジナルソングで感謝を伝えよう！」と夢が広がり、歌づくりを行うことになったのです。

まずは「自分たちの半生」を歌詞にするために自分史をつくり、それらをつなぎ合わせて学年史にまとめました。次にタイトルを一人１つずつ考えてその中からクラス代表を選び、各代表によるプレゼン大会を開きました。最終的に決まったのが『ツリー ～限りない道で～』です。「僕らの人生は、木でいうと種がまかれた瞬間に始まったんだね」「今までに挫折があった。それは枝が折れたようなものだ」「枝が折れたって、木は生き続ける。そこからまた新しい芽が出るよね」と、自分たちと木の人生を重ね合わせ、幼少期、低学年、中学年、高学年、未来の５つのグループに分かれ、歌詞づくりを始めました。しかし、歌詞をつくった経験が子どもも教員もなかったため、作業は難航します。そこで、今まで子どもたちが歌ってきた合唱曲の中で人気のあった『COSMOS』『地球星歌～笑顔のために～』を作詞されたミマス先生にアドヴァイスをいただきたいということで、今回の特別授業が実現しました。

# 「総合的な学習の時間」の可能性
## ── 歌詞づくりを通した子どもたちの成長

### コンポジションを実践すること

**井上：**ミマス先生のお話の中には、さまざまなキーワードがありましたよね。「周りに何と言われようと自分がいいと思ったことはやってみる」「ゴールを定めて、どこから出発するか俯瞰（ふかん）してみよう」など。曲づくりというのは、生きていくことと深く関わりがあると感じました。

**ミマス：**そうですね、何にでも通じます。僕が最近大事だなと思うのは「コンポジション」なんです。「コン＝一緒」「ポジション＝場所」のことで、何かを配置すること。言葉や文脈を配置するのが作詞や作文です。会社員がプレゼンをしたり、パワーポイントで資料をつくったりするのと似ていますね。生活の中にたとえると、「何日までにこれを終わらせるには、今日はこれ、明日はこれをやる」というふうに計画を立てるのと同じです。人生設計でいえば、「何歳までに●●をやろう。そのために今年は▲▲をやらなくてはいけない」など、全てに通じるのがコンポジションです。目指すものから逆算をして、コンポジションしていくことがとても重要だと思っています。

**渡邉：**日頃から「始まりと終わりの見通しをもつように」と子どもたちに言っていますけれど、これは大人になっても必要なことですよね。子どもは実際に活動していく中で、具体的に分かったり感じたりしているようです。今回の曲についても、当初は２番はなしで考えていましたが、「いちばん伝えたいことが最後の１回だけでは足りない」と言いだして、「１番サビ・２番サビ」といった曲の構成まで考えていくようになりました。

**ミマス：**子どもたちの質問の中にも、サビについての質問がありましたね。「そういうことまで考えていたのか」と感心しました。

**渡邉：**私たち教師が想定していた構成と違いましたが、子どもたちが本気になって「こう歌いたい」というものを明確にしながら曲の構成を考えたのは大きな成長だと思います。

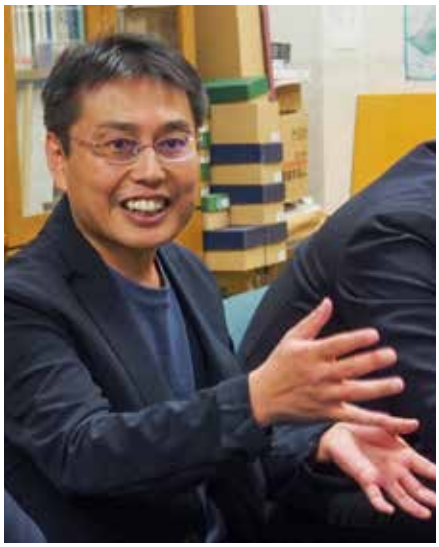
**松元：**あれこそコンポジションで、見通しをもって行った結果でしょう。音楽づくりのプロフェッショナルを育てるつもりはないのですが、私たち教師としては、こうした活動を通して「よき人間であってほしい」という願いがありました。ミマス先生が子どもたちを導いてくださったことに感謝しています。

後列左から、渡邉恵先生、松元博一先生、川口桃奈先生
前列左から、校長の西山俊彦先生、ミマスさん、井上巌太先生

### 本物に触れること

**Vent：**今日の子どもたちの様子をご覧になって、どのような印象をもたれましたか？

**ミマス：**児童の皆さんはとても賢く熱心で、すばらしいお子さんたちですね。校長先生もおっしゃっていましたが、「どういう質問をするかで今まで何を学んできたのかが分かる」というのはほんとうですね。僕への質問内容からも、一人一人が少しでもよい歌をつくろうという気持ちをもっているのがよく分かりました。



○ ミマス
神奈川県出身。高校生の頃に独学で作詞・作曲を始める。子どもの頃から好きだった星空や天文、自然や旅をテーマにした楽曲が多い。大学と大学院での専攻は自然地理学(地形学)。2児の父。

**井上：**難しい表現やよい歌詞にしようとすればするほど迷走してしまうところも見受けられましたが、「体言止めやシンプルな言葉のほうがパワーがある」というミマス先生のアドヴァイスで視界が晴れたようになりました。振り返りの中で子どもたちも「新鮮だった」と発言していましたよね。

**松元：**行き詰まったときだったからこそ、ミマス先生のお言葉が何よりも響いたのかなと思います。「本物に触れる」という機会をつくることができてよかったです。子どもたちの目や表情、口調ががらりと変わりました。そうした姿が見られたのは大きな収穫です。ミマス先生に火を付けていただけたので、きっとこのまま勢いは止まらないことでしょう。

**川口：**今日の授業が終わったあとに、編集リーダーの子どもたちが「次の時間は自分たちで何をするか決めていいんですよね？」と言ってきました。「次はこうしたい、ああしたい」という意欲が生まれたのだと思います。

**渡邉：**子どもたちは下級生のときから、校内発表会で上の学年が『COSMOS』を歌っているのを聞いていますし、昨年から自分たちも『地球星歌～笑顔のために～』を歌っています。その曲をつくった方が来てくださるというだけで今日はテンションが全然違いましたし、ものすごく吸収力がありました。ミマス先生からのアドヴァイスもすぐに実践して、瞬時に身になっていると感じました。

**ミマス：**例えば、歌詞の【「元気に育って」と そう聞こえる声】の部分ですよね。カギかっこがあれば誰かが言った言葉なんだというのが文字としては分かるけれど、「カギかっこは実際には発音されないのだから、耳で聞いても分かるように工夫が必要ですね」と言ったところ、子どもたちなりに考えていました。

**松元：**あれはよかったですよね。歌詞というのは視覚的な情報として考えがちだけれど、「歌を歌うときには聞く人の耳を意識しなくてはいけないんだ」というアドヴァイスがさすがだと思いました。プロとしての、言葉の綴り方や届け方の視点を伝授していただいたような感覚です。

**西山：**なじみのある名曲があったときに、「なんでこんなにすてきなんだろう」と意識的に考えることはあまりないじゃないですか。でも、今回子どもたちが曲をつくる立場になったのをきっかけに、他の歌に触れるときにそういう見方ができたらおもしろいだろうなと感じます。

**ミマス：**自分の好きな歌があったら、「自分はなぜこの歌が好きなんだろう？どこにひかれるのだろう？」と分析していくと、とても勉強になります。そうして突き詰めていくと、自分が何かをつくるときのお手本にすることができる。これはすごく大事なことだと思います。

**松元：**子どもたちは今回の歌詞づくりだけでは終わらないですよ。卒業文集もありますからね。

**渡邉：**文集で卒業への思いを詩に表現する際にも活用できますね。今日ミマス先生と出会ったことや教えていただいたことはとても価値のあることで、卒業後にもつながっていくのではないかと思います。

**ミマス：**歌をつくるという作業には、これから彼らが大人になっていくうえで糧になること、必要なことがいっぱい詰まっています。それが子どもたちの未来につながっていくのであればとてもうれしいです。

## 卒業の先へ

**ミマス：**子どもたちの発言の中にもありましたが、「多数決ではなくて、理由を全員で共有することが大事なんだ」と。もう

つくった歌詞について子どもたち自身で説明を行う

大人ですね。授業の終わりに子どもたちが僕のサインをほしがって集まってきたときに、ある子が「みんなで１枚にしよう」と提案し、歌詞の書いてある大きい紙をはがしてきて「ここにお願いします」と言ってきたんですよ。それで皆が納得して落ち着きましたが、あの混乱を自分の発言一つで解決するという人心掌握術と行動力。彼はもう世界のリーダーになれますね！ 他の子どもたちも、このまま社会に出ても通用する子たちばかりです。知識はこれからですが、基本的なことが芯としてできている子が多いなと感じました。

グループ活動の様子。ミマスさんが各班を見て回る

**井上：**これから卒業を迎える子どもたちにとって、とてもうれしい言葉ですね。これから卒業式はどうつくっていきましょうかね。

**西山：**「歌詞をつくる・曲ができる・歌う」という一連の作業を経験したので、これから卒業式をどうつくっていくかという課題の中で、また新たな活動が子どもたちから生まれるのではないかと予想しています。今回の「歌をつくる」という活動は一つの核であって、そこから学んだことを発揮して、さらに奥行きのある活動が生まれてくるような気がします。後輩たちに何を残そうか、感謝の気持ちを誰に伝えようか、という話が出てくるかもしれませんし、歌詞に込めたことを具現化していく場面は歌だけではないと気付くかもしれません。こうした奥行きが生まれてきたら、総合的にとてもよい経験になるのではないでしょうか。

**ミマス：**「総合的な学習の時間」のカリキュラムの成功例ですね。

**西山：**この活動を５年生が知ったら、自分たちもやってみたい、もっとその上を行きたいという具合に、よい刺激になるかもしれません。６年生だけで終わらせず、後輩にもつなげていきたいですね。

**Vent：**ここまで達するのに、どんな苦労がありましたか？

**井上：**４月の入学式では６年生が歌を歌うのですが、初めてこの学年の歌を聞いたとき、心にビビッとくるものがなく、一人一人の思いも感じられず、大丈夫かな……というスタートでした。それから学校生活や日々の授業を通して、少しずつ自分たちで「こうしていこう」「次はもっとこうしたほうがいいんじゃないか」というふうに、今よりもよくしていきたいという向上心が徐々に出てきているところなんです。でも学年でのパワーはまだ弱くて、個人のもつパワーがしっかり集まったら、さらにすごいものができるだろうと思っています。一人一人のパワーを結集させて、１本の大きな木になったらいいですね。曲が完成するまでの過程のように、多数決ではない決め方や、互いに意見をぶつけ合うことが日常的にできたら、もっと成長できるはずです。

**渡邉：**１学年146人いると、自分がやらなくても事が進んでしまうので、誰かに任せてしまいがちですが、今回の曲づくりでは一人一人が自分のこととして関わってほしいと思っていました。146通りのものを一つにするのは難しいし、ときには自分の意見がはじかれてしまうこともあるだろうけれど、「どうせ誰かのが……」とならないように私たちもいろいろ考えました。まだまだですが、自分のこととして関わろう、皆でよくしていこうという気持ちが感じ取れる部分も増えてきたと思います。

**松元：**最近、ようやく気持ちが上がってきた段階ですよね。だから今日ミマス先生に、子どもたちの気持ちに火を付けていただけたのはすばらしいタイミングでした。

**川口：**歌詞とメロディーができて、この歌をどんなふうに歌いたいか、自分たちで考える段階になりましたね。自分たちがここまで思いを込めてつくった曲だから、表現をどう工夫するかも自分たちで考えてほしいです。歌の授業でも「つくった人の思いがとても大切だよ」と言っていますが、今回は自分たちでつくったのだから、より思いを込めて、歌の表現も変わってくるといいなと思います。

**ミマス：**「みんなでつくるのって大変だな」と実感するのは大事なことで、子どもたちの今後の財産になります。今の世の中に足りないことは、他人の労働に対する敬意だと感じています。何かをつくるのはこんなに大変なんだと知り、つくる

## 相模原市立谷口台小学校６年生オリジナルソング【歌詞】

**ツリー ～限りない道で～**

これは僕らの物語（ストーリー）
僕らは人生に種をまいた
わがままだった
あるとき光が差した
初めて感じるあたたかさ
僕を通り抜けた風
「元気に育って」と
そう聞こえる声
僕は一人じゃないんだ
そう思ったとき

「小学校」という新たな地に根をはった
あこがれのツリーになるためのとびらを開く
新しい光を追い求めた
あこがれのツリーになるために
そこでライバルと出会った
相手より上に行きたい
勝ちたい
そう感じた
たくさんぶつかり合って
仲間ができた

嵐の力で枝が折れた
この経験を糧にして
今までの自分よりさらなる高みへ
仲間の支えと自分の力で
光へ進む
理想の姿へ
夢をあきらめず
進んでいく
Let's go to my road!
これが僕ら
これがツリー

いくら枝が折れても
いつだって立ち上がって
仲間と助け合い
新しい未来をつくっていく
みんなで伸ばすツリー
We make a tree
自分だけのツリーになっていこう
一人ひとりが輝き
自分から作り出す未来へ

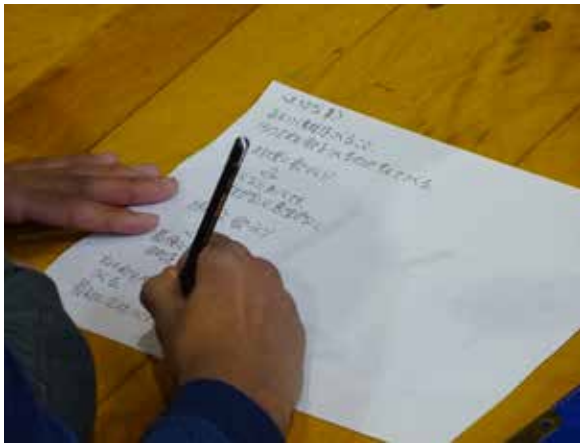
感謝忘れずに
歩んでいく
それが僕らのツリー
いくら枝が折れても
いつだって立ち上がって
仲間たちと助け合う
みんなの思いをのせて
自分なりの未来を追い求めて
一人ひとりがなりたい自分になっていく
それが僕らのMAX
それが僕らのツリー

これが
僕らなりの「ありがとう」

人への尊敬と感謝の気持ちをもつ。そこから他人への尊敬と感謝が生まれてくるので、自分たちでつくる経験はとても貴重だと思います。

**Vent：**最後に、これから卒業に向かう子どもたちにメッセージをお願いします。

**ミマス：**僕は高校生になるまで音楽は好きでもなかったですし、ピアノも習っていませんでした。どちらかというと苦手な教科でしたが、ある時期から音楽が自分にとってとても大切なものになっていきました。子どもたちには必ず言うんですけれど、皆さんは自分の人生の柱というものにまだ出会っていなくて、これから出会う確率が高い。それに出会ったときに、ちゃんと自分のものにするためには、自分が好きだなと感じたことや夢中になれること、やっていて楽しいと思うことを一瞬一瞬とことんやること。そうすると、いつか自分の人生をどうやって生きていこうかと決めるときに、自分には夢中になれるものがあると自信をもって言えます。音楽でもスポーツでも他のものでも何でもいいのですが、小学生にはとにかく、好きなことをどんどんやってほしいと思います。



ミマスさんのお話を一生懸命にメモする

**校長先生より**

創立70年を迎えた本校では、音楽を通して学級経営やクラススキルを高めることを目指しています。また、「生活科」や「総合的な学習の時間」にも力を入れており、地域の中でさまざまな学習に取り組んでいます。同学年だけでなく異学年とも交流する場面を多く設け、互いに学び合うことや、見通しをもって活動に臨み、振り返りを行うことを大切にしています。

西山俊彦 先生
相模原市立谷口台小学校 校長

『春風の中で』を歌う

# 授業者に訊く②

次にご紹介するのは、現役教員である一方で『大切なもの』『あなたに会えて…』など合唱曲の創作活動も行う山崎朋子先生です。取材したのは、山崎先生が勤務する調布市立第五中学校の２年生の授業。生徒たち皆、笑顔いっぱいで積極的に発言し、活動になると真剣に音楽に向き合う様子が印象的でした。山崎先生がふだんどのようなことを意識しながら指導されているのか、お話を伺いました。

**山崎朋子**（調布市立第五中学校）

※取材は2020年２月上旬に行われたものです。

山崎朋子先生

## 本時の授業の位置付け

本時の内容は、３月と４月の学校行事に向けた合唱の練習です。３年生に向けて歌う『大切なもの』、卒業式で歌う『旅立ちの日に』（全校合唱）と『春風の中で』（３年生見送り合唱）、入学式で歌う『空は今』を、各パートの音を確認しながら取り組みます。生徒それぞれの感じる曲のイメージや、どのように歌いたいかを大切にして、思考し表現する力を育むことを目指します。

## 授業の流れ

| | 学習の内容、学習活動 |
|---|---|
| 導入 | ○ 本時の学習の内容を確認する。<br>○ 腹式呼吸の練習と、発声練習をする。 |
| 展開 | ○ 『大切なもの』を歌う。<br>○ 『空は今』を歌う。<br>・ 全員で歌う際、パートごとのグループになり、歌いながら互いの音を聞き合う。<br>・ 気を付けるポイントは「顔」「互いの音」。<br>○ 『旅立ちの日に』を歌う。<br>・ 女声と男声それぞれの音を確認して歌う。<br>○ 『春風の中で』を歌う。<br>・ 曲の説明を聞き、歌詞の意味を考えながら、パートごとに歌い、聞き合う。 |
| まとめ | ○『春風の中で』に自分なりのタイトルを付ける。 |

# 時代に合った学校教育で、生徒の思考を引き出す

## 学校教育として生きる楽曲を

**Vent（以下、V）：**授業では山崎先生作詞・作曲の『春風の中で』を歌いました。この曲について、みんなだったらどのようなタイトルを付けるか考える課題を出されましたが、このような活動は、以前からも行っていたのですか？

**山崎：**はい、ずっとやっていることです。生徒の考えたタイトルは、いろいろなものがありました。回答の中で、おもしろいなと思ったところには赤線を引いて、このあと予定している公開授業でみんなに紹介したいと思っています。

**V：**完成している楽曲に対して意見を求めるといった活動を、先生自らなさることに驚きました。

**山崎：**私は洋画の「ラストにこのあと何か続くのかな」という雰囲気の終わり方が好きなんです。その影響で、歌詞の最後を「…」にすることがあるのですが、この「…」の部分に入る言葉を考えさせることもしていますよ。例えば『大切なもの』の最後は「…」で終わりますが、そのあとの言葉は「僕は守りたい」でも「なくしたくない」でもいい。自分で考えてみることは大切です。

**V：**楽曲をさまざまな形で活用されているのですね。

**山崎：**曲をただ書いただけだと自己満足になってしまいますからね。学校教育として生かすことに意味があります。楽譜どおりに歌うことも大切ですが、音楽を部活動などでやっていない生徒には難しい場合もあるのです。そういう子たちには、歌詞を考えることをきっかけに、音楽に興味をもってもらえたらと思います。

**V：**先生は以前から『旅立ちの日に』を授業で取り上げていらっしゃるそうですが、この曲の魅力はどのようなところにあるとお考えですか？

**山崎：**私がいちばんこの曲で好きなのは間奏なんです。この間奏で、子どもたちは今までの学校生活を思い出すのではないでしょうか。ピアノ伴奏を弾いていても、それを感じます。子どもたちが思い出に浸る時間になったらいいなと思います。

**V：**先生の新曲『その先へ』も、卒業する頃に１年生の始めの頃を思い出して歌ってほしい歌ですよね。

**山崎：**はい。涙を流して卒業して、不安な気持ちで次の進路に向かっていかなきゃいけない、という状況で歌ってもらうことを想像しています。「入学の頃はこうやって出会ったね」「また新しいところへ行かなければいけないね」と思い出してほしいですね。

**V：**実際に教員をされている山崎先生だからこその発想だと思います。『その先へ』は、歌いやすいという意見も聞きました。

**山崎：**ええ、意識して歌いやすくしています。歌いやすくないと子どもは歌わないので（笑）。

**V：**先生は生徒の詩に、曲を書かれることがありますね。詩を書くような生徒が育っていくことに、手応えを感じますか？

**山崎：**手応えというのはどうでしょう……。それは分かりませんが、生徒には私を超えてほしいと思っています。先生はいつまでも王様ではありません。毎日授業をしていると、自分がいちばんだと思いがちですが、卒業する頃には実際、私を超えていく生徒が何人もいます。

**V：**どのようなときに生徒がご自身を超えたと感じますか？

**山崎：**学校の外では音楽をやっていなくても、「ここは拍の長さが違うよ」など指摘してくれる生徒が毎年何人もいます。楽譜を読むのが苦手でも、授業の中で耳や音楽性がとても伸びる生徒もいます。そのように成長した生徒と接すると、私も新たな視点で音楽を見ることができますから、勉強になりますね。毎年何人も私を超える生徒がいることは、私の誇りです。

## １年生を育てる４つの心がけ

**V：**入学して間もない１年生を育てるには、どういったことに気を付ければよいとお考えですか？

**山崎：**注意していることは４つあります。まずは、入学してくる生徒が通っていた小学校のやり方を非難しないこと。さまざまな事情があるので、全てを受け入れることにしています。「教師として自分はどこまでできるのか」という、やりがいとして捉えるようにしています。

**V：**そのように先生が前向きだと、生徒たちもがんばろうと思えるでしょうね。

**山崎：**次に、きれいな教室での、楽しい授業環境づくりです。今、電車の中では動く広告がありますよね？ それによってもめごとが減ったと言われています。音楽に関係する本やチラシを音楽室の中にたくさん置いて、気軽に音楽に触れ

ることができる環境づくりを心がけています。

**V：**この音楽室はきれいで楽しげな雰囲気にあふれています。

**山崎：**教室を楽しく飾れるのは音楽科の特権だと思っているので、貼りすぎかな？って思うぐらい壁に掲示物を貼っています。3つ目は、教師自身がきれいな日本語で話すことです。ざっくばらんに「しょうがねえなあ」と話す場面もあるかもしれませんが、それを「しかたがないね」などきれいな言葉に変えてみると、子どもの言葉も自然ときれいになりますよ。そして、最後に挨拶です。私は授業の最初、頭声発声で「おはようございます」と言ってから音楽室に入ります。子どもたちはまねをするのが好きですから、「おはようございます」と頭声発声で返してきます。それから普通の声で「おはようございます」と挨拶をします。それだけで、ひと月ぐらいすればきれいな声で歌えるようになりますよ。

## 「思考・判断・表現」をどう考えるか

**V：**これからの学習指導要領では、評価規準が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になります。特に「思考・判断・表現」について悩む現場の先生の声を聞くことがありますが、山崎先生はどのようにお考えでしょうか？

**山崎：**そうですね……、まずは時代と生徒に合った教育を心がけることだと思います。中学生には、音楽の授業を受けるうちに音楽がめんどうになってしまい、歌も歌いたくない子がいます。そのような子たちは「きちんと立って歌いなさい」「楽譜を持ちなさい」という、1から100までの細かい指導が原因で嫌になっているように見受けられます。そのような教え方は現代の子どもに合っていませんし、大人だって全てを決められたら嫌じゃないですか(笑)。全部を指示されてしまったら、自分で思考する、判断する、表現するという力は付かないですよね。

**V：**まずは土台づくりとして環境を整えることが大切ですね。生徒が思考・判断・表現する力を付けるための指導として、具体例はありますか？

**山崎：**「*p*の表現」を例に挙げると、教科書には「弱く」という基本的な意味しか載っていませんが、イタリア語にはさまざまな意味があります。ほんとうはそこを細やかに掘り下げるのが理想です。日本語にも同じことが言えて、「愛」とひと言に言っても、男女の愛だけではなく、友達や家族、物に対する愛もありますから。言葉尻だけを捉えて「*p*＝弱く」として終わってしまうと、思考も判断もいらないことになってしまう。

音楽室の壁にはさまざまな掲示物が貼り出されている

○ 山崎朋子(やまざき・ともこ)
調布市立第五中学校 教諭

**V：**見慣れた一つの記号から、表現を深く掘り下げることができますね。

**山崎：**また、*p*を「弱く歌いたい」という子がいれば、その理由を考える。「歌詞の内容から、強く歌うのが変だから」という子がいれば、それも正解。生徒それぞれの思考が引き出される授業をすることが大切なのではないでしょうか。1つの答えにそろえる必要はありません。「この歌の*p*にはどういう意味があるかと考えること」が思考であり、表現につながっていくことだと私は思います。

**V：**そこをしっかり授業の中で見取っていくのですね。

**山崎：**はい。公教育では音楽家を育てているわけではありませんから、生徒たちが

『大切なもの』を歌う

発する音が違っていても、必ずしも直す必要はないと思っています。教師が全てを教えて、違っているところを指摘する学習では、生徒たちもなかなか伸びません。それに学習が深まっていくと、生徒どうしで気が付いて「そこは違うよ」と自然と間違いを指摘し合う姿も見られます。「こういうふうに演奏したい」と思う判断、歌えたときの表現、それらが人の心を打つ演奏になります。私はそこを評価していくことが必要だと思うのです。

**V：**そのような授業だと、生徒も安心して学べますね。

**山崎：**一方で最近の合唱コンクールは、ミスに焦点を当てられすぎると感じます。さらにその「ミスはいけない」という感覚が、学校の授業にまで持ち込まれることがあります。「前の先生の指導のほうがよく歌えていた」などと言われるとつらいですよね。先生だって傷つきますし、ミスを減らそうという気持ちになるかもしれません。だけど、教育現場は子どもの情緒を育てる場所です。中学校音楽科の教員には、音楽が大好きで、大学や大学院まで進み、音楽を学んできた先生が多くいらっしゃいます。長い積み重ねの中で学んできた音楽のよさを、前面に出して教えることこそ、子どもたちの思考力や判断力を育んでいくことにつながると思います。そうして生徒が音楽のよさを感じることができたときに、音楽室や学校の外で「音楽を聴きたいな」「音楽が好きだな」と広がるのではないでしょうか。

## 時代と教育

**V：**先生は長年現場で指導されていますが、教育現場の変化に対してどのようなことを感じますか？

**山崎：**時代はどんどん動いていくのに、教育現場の動きや対応は遅いなと感じることが多いです。例えばSNSに関する事件が起きると、「怖いね」「気を付けよう」となりますよね。しかし今の日本の教育では「SNSは気を付けて使う」ではなくて、「必要がなければSNSは使わない」という判断になりがちです。今の時代はたくさんロボットが造られて、AIが盛んになっていく。その中で、機械を使わないで暮らしていくのは無理なことではないでしょうか。

**V：**実際に教育現場でもICTなど、機械は普及しています。

**山崎：**これからも機械は発展すると思われますから、50年後、100年後には、機械に使われない人間を育てる必要がありますよね。そうしないと、このままでは人間が機械に使われてしまいます。人々が暮らしやすくなるようにと新しいものが作られているわけなので、学校はどうすれば安全に使えるかを教える現場であってほしいと思います。

**V：**変わっていく社会の中で、山崎先生ご自身が大切にしていることはありますか？

**山崎：**最近よく耳にする「働き方改革」によって、働く時間が短くなり、多くの人は体が楽になると思っていますが、私は

『空は今』をパートごとに集まって全員で歌う。
生徒たちは自主的に気が付いたことを言い合う

声を掛けながら伴奏をする山崎先生

余った時間をどう使うかが大事だと思います。早く帰って持ち帰った仕事をしていても意味がありません(笑)。豊かな子どもを育てるには、豊かな先生が必要です。豊かな音楽科の先生になるためには、先生自身がコンサートに出かけたり、好きな音楽を聴いたりすることが大切だと思っています。教師が充実した生活を送り、その姿を見せる。そんな先生に学びたいと子どもたちが思ってくれたときに、豊かな授業へとつながっていくのではないでしょうか。時代に沿うために何かを変えなくてはならないとき、もし多少のマイナスがあったとしても、現代にふさわしいものを見極めていくことが、教育現場には大切だと思います。

**V:** ありがとうございました。

## Interview

**2年B組の生徒さんたち**

**――山崎朋子先生の歌で特に好きな歌はありますか？**

- 『決して泣かない』が好きです。
- 私も『決して泣かない』が好きです！
- 『夕陽』は卒業生の悠道(ゆうと)さんが作詞した曲なのですが、冒頭の「知らない街なのに　いつかの思い出に見える」という歌詞が、すてきだなあと思います。
- 友達とカラオケで『大切なもの』を、ソプラノとアルトに分けて歌うことがあります。

**――先生はどのようにご自身の曲を教えてくれますか？**

- 授業で曲を歌う前に、曲ができた過程や内容を説明してから始まります。

**――全国の中学生が山崎先生を知っていることをどう思いますか？**

- うれしいです。
- 学校の知名度も上がるから、よいことだと思います(笑)。
- とてもすごいと思います！

## Interview

**髙汐康浩 先生**
**元 調布市立第五中学校 校長**
**現 府中市立府中第二中学校 校長**

**――校長先生が大切にされていることを教えてください。**

本校は、全校生徒661名(令和2年3月現在)の東京都内でも大きいほうの学校です。私自身、この学校には縁があり、過去に教員として二度勤務しています。今、校長として目指しているのは、「生徒が通いたくなる学校」「保護者が子どもを通わせたくなる学校」「教職員の働きやすい職場」3つの実現です。

**――音楽科について、どのようにお考えでしょうか？**

感性を育てるための、大切な教科だと思います。約30年前、新潟県のとある中学校に理科の教員として勤務していた頃、合唱コンクールで全クラスの生徒の歌を最新の方法で録音してCDを作り、卒業記念に渡したことがありました。当時は録音もCDを作るのも珍しいことだったからでしょうか、新聞にも取り上げられました。その頃からすでに、音楽は大切だと思っています。本校の合唱部は約130名で、学校に与える影響は大きいと感じていますから、私は山崎先生の活動は最大限バックアップしたいと考えています。芸術教科は生徒の感性の育成に欠かせません。

**――生徒の感性を大切にお考えなのですね。**

きれいなものを「きれい」と言えることは、感性が育っているということ。感性が育たないと、せっかくいいものを見てもばかにしてしまう。そのような生徒が多くなると学校も地域も荒れてしまいます。生徒には美しいものを美しいと言えたり、素直に受け止めたりする気持ちを育んでほしいです。本校ではうまくいっていると思います。

**――情操教育で子どもたちも学習に向かいますし、よいサイクルができているのですね。**

はい、基本となるのは感性を磨く芸術教科と、体をつくる体育だと思います。そして、それらを高くもっていくのが知識や技能などの教科教育でしょうか。学力がここ2年間で上がっているのは、バランスのよい教育と教科指導のおかげではないかと考えています。

**――授業終了後、山崎先生の生徒さんにインタヴューした際にも、冗談を交えながら非常に聡明な回答が返ってきました。**

そうでしたか！ そういった人間関係や会話を豊かにするセンスは、そこにつながる感性が育っているからでしょう。これからも音楽で、もっと感受性や感性を磨いてほしいなと思います。

KYOGEI レポート

# ４校合同合唱コンクール

## 小規模校ならではの取り組み

**仙台市では、小規模校の児童・生徒が仲間との関わりや学び合いを経験することを目的に、複数の学校が協力して授業や行事に取り組む交流学習事業が行われています。このレポートでは、市内の４つの中学校が合同で開催している合唱コンクールについて、運営を担う先生方にお話を伺いました。**

吉田知彦先生
（仙台市立根白石中学校 校長）

細堀夏生先生
（仙台市立根白石中学校 教諭）

※取材は2019年11月に行われたものです。

### ４校合同合唱コンクールについて

仙台市立生出（おいで）中学校、根白石（ねのしろいし）中学校、広陵（こうりょう）中学校、秋保（あきう）中学校の４校が平成30年度から合同で開催している。いずれも１学年１クラスの学校で、４校が集まることによって学年ごとに競い合うコンクール形式を実現。合唱を通して充実感や達成感を味わい、他校の生徒と交流しながら互いを認め合うことを目指している。

## 少人数の力を引き出すために

**――４校合同合唱コンクールはどのような経緯で始まったのでしょうか？**

○ 吉田知彦（よしだ・ともひこ）

**吉田：**小規模校の子どもたちの学び合いや切磋琢磨の機会をつくるため、周辺の学校が合同でさまざまな活動を行っており、その一環として合唱コンクールに取り組んでいます。特に合唱は１学年１クラスだと学年ごとに競うコンクールができません。初めは２校合同で行っていましたが、いろいろと模索した結果、平成30年度から４校で行うことになりました。

**細堀：**４校が集まって合唱を披露し合うだけではなく、競い合うコンクールとして成り立っています。

**――各学校の先生方が連絡を取り合って準備されるのでしょうか？**

**細堀：**はい。教頭と音楽科の教員が互いに連絡を取り合います。学年ごとの課題曲は、なるべく教科書の中の曲にしたいという意見もあり、１年生は『浜辺の歌』（林 古渓 作詞／成田為三 作曲）、２年生は『夏の日の贈りもの』（高木あきこ 作詞／加賀清孝 作曲）、３年生は教科書には載っていませんが『風にふかれて』（岩沢千早 作詞／大熊崇子 作曲）になりました。自由曲は選曲リストを作成し、その中から生徒と担任の先生で決めてもらうのですが、その際も重複しないよう４校で打ち合わせを行っています。

交流学習（第１回）：それぞれの学校を紹介する

交流学習（第２回）：コンクール前のリハーサルを行う

**――コンクールまでに、どのぐらいの準備期間を設けるのでしょうか？**

**細堀：**３月までに課題曲を決定して、４月から練習を始めます。練習スタートの日にちも４校で同じになるよう決めていましたね。

**吉田：**仙台市は７月の上旬から中旬にかけて合唱コンクールを行うことが多いので、２・３年生は前年度の３月、卒業式が終わってからすぐに音取りを始めます。

**――４校の間でも生徒数に差があるようですが、それぞれのよさを生かして競い合っているのでしょうか？**

**細堀：**人数の少ない学校も積極的に声を出して歌っていましたし、その姿に他校の生徒もよい刺激を受けていました。

**吉田**：昨年度、初めて４校で交流して大いに刺激を受け、どの学校もそれぞれがレベルアップしました。他校と競い合うことで、自分たちの合唱に取り組む姿勢にも変化が見られます。４校で人数にかなり差があり、十数人と30人ほどの合唱が同じ土俵で競うわけですが、昨年は十数人しかいない広陵中学校の２年生が金賞をとりました。人数の少なさを感じさせない完成度で、他校の生徒も感動していたようです。

**――音楽科以外の先生も積極的に関わっているのでしょうか？**

**細堀**：学年主任や学級担任の先生が指揮や伴奏をする学校もあります。以前はピアノを弾ける子がクラスに５～６人いましたが、今は１人、２人いるかどうか。１人もいないこともあります。

**吉田**：先生たちが指揮や伴奏をするというのも、それはそれですばらしいことですよね。合唱コンクールは音楽のレベルを競い合うという目的もありますが、根本はクラスづくりや学級経営に関わることです。皆で協力して何かを成し遂げようという気持ちを育て、充実感や達成感を味わうことに意味があるので、そこに先生たちも参加するというのはよいことだと思います。

**細堀**：音楽の授業も「いつでも来てください」とオープンにしていて、担任の先生に積極的に入っていただいています。音楽の先生がどのように合唱をつくっているか実際に見てもらい、クラスでの合唱づくりに役立てていただくためです。

## 合唱を通して互いを理解し合う

**――事前のリハーサルなど、４校の生徒たちが集まる機会はありますか？**

**細堀**：コンクールまでに２回の交流会があります。第１回は５月に、第２回は本番の１週間ほど前にリハーサルを行います。各学校の紹介をパワーポイントで発表し、それぞれの校歌を歌ったり、互いを理解するためのエクササイズを行ったりして交流を深めました。

**吉田**：４校が集まるとけっこうな人数になるので、いろいろな交流ができます。合唱コンクールに向けての意気込みを話すなど、気合いが入りつつも和やかな感じでしたね。

コンクール本番

**細堀**：第２回のリハーサル後には、コンクールまで残り１週間の目標ができ、その１週間で大きく伸びるんです。自分たちには何が足りないのか自ら気付いて改善していました。

○ 細堀夏生（ほそぼり・なつき）

**吉田**：事前の交流を通して互いを認め合っているので、コンクールが終わって帰るときには他校の生徒が手を振りながら見送ってくれるんです。生徒たちの感想文を読むと、「私たちもがんばったけれど、他校の合唱にも感動した」「金賞をとったこと以上に、４校で交流できてよかった」などと書かれていて、我々教員も感動しました。

**――コンクール後、生徒たちの意識や雰囲気から成長を感じることはありますか？**

**細堀**：歌に対する姿勢やテクニックが伸びたのはもちろんですが、廊下で自然に歌っている光景なども見られ、学校生活が明るくなり、一人一人の表情も豊かになったように感じます。

**吉田**：合唱に取り組むには皆で協力しなければいけないので、クラスの団結力を高めるのにも効果的な活動ですよね。

**――全体合唱で歌われた『仲間とともに』（薮内海美 作詞／かの香織・遊佐未森 作曲／佐藤 準 編曲）はどのような曲ですか？**

**細堀**：この曲は仙台でつくられた復興ソングで、閉会行事に皆で歌うのにふさわしいと思い、選びました。

表彰式

**吉田**：いろいろな地域に復興ソングがありますが、仙台市のこの歌は、中学生が復興への願いを込めて詩を書き、プロのシンガーソングライターが曲を付けてくださったもの。ずっと歌い継いでいきたいです。

全体合唱では、仙台市の復興ソング『仲間とともに』が歌われた

**――最後に、次回への抱負をお願いします。**

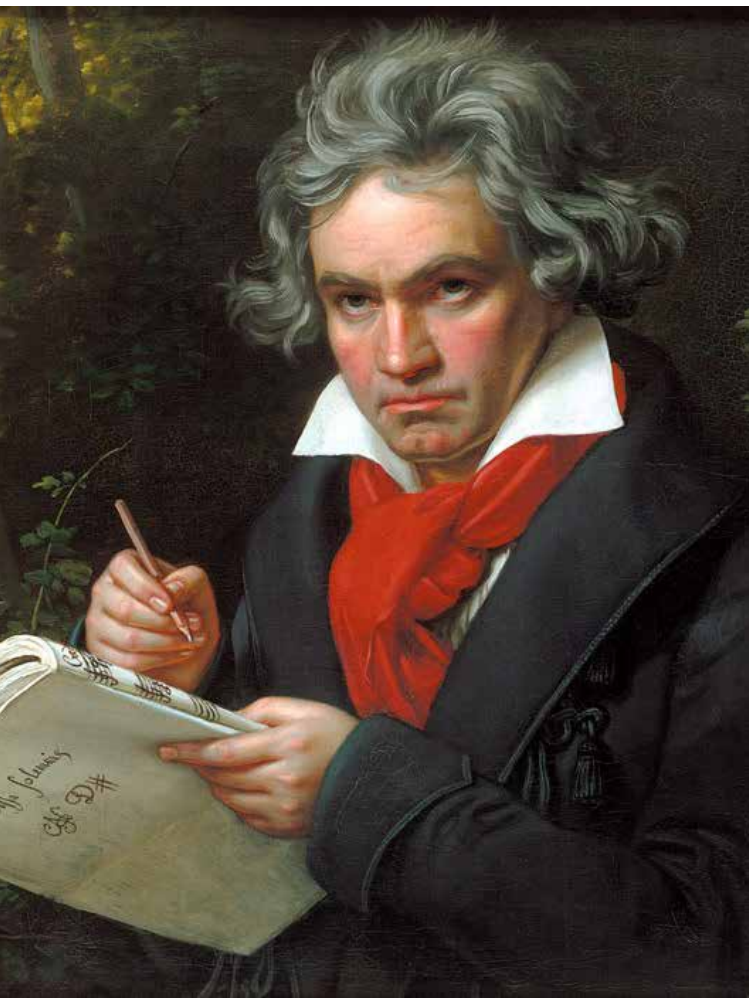
**吉田**：音楽を通して心を豊かにしてほしいというのがいちばんの願いですので、コンクールではあるけれど、合唱を通して感性を磨くこと、心を豊かに広げること、そして互いを理解し合うことを大事にしていきたいです。小さい学校だからこそ、夢や希望がもてるようになってほしいですね。集まって交流することで、自分たちもこんなことができるんだと自信をもってほしいですし、それを糧にさらに成長できることを願っています。

特別企画

# ベートーヴェン生誕250周年に寄せて

文：西原 稔
Text：Minoru Nishihara

**2020年は、ベートーヴェンのアニバーサリー・イヤーです。12月に生誕250周年を迎えるベートーヴェンは、誰もが知る作曲家であり、あまりにも有名な存在です。しかし、私たちはどれくらい彼のことを知っているのでしょうか？ 生誕250周年にあたり、現代の視点からベートーヴェンについて考えるべく、音楽学者の西原稔（にしはらみのる）先生にご寄稿いただきました。**



**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン**
（1770年12月16日頃生～1827年3月26日没）

ドイツ・ボン出身の作曲家、ピアニスト。幼い頃より宮廷に仕える音楽家の父から音楽を学び、21歳のときに、当時の音楽の中心地であったウィーンに出る。20代後半から耳に異常を感じ始め、30歳の頃に聴力のほとんどを失ってしまったが、それを乗り越えて56歳で亡くなるまで作品を書き続けた。

## 現代に伝わるベートーヴェン像から

**Q 音楽の教科書に必ず出てくるベートーヴェン。偉大だと言われるけれど、その理由は？**

ベートーヴェンが偉大であったのにはさまざまな理由があります。一つは歴史に残る名作を数多く作曲した点です。そしてあとから詳しく述べるように、その作品が後世の作曲家に強い影響を及ぼしたことも大きな理由です。

音楽の歴史の中には偉大な大作曲家は数多くおります。ベートーヴェンの先輩ではバッハやハイドンやモーツァルトも偉大な作曲家でとても有名です。これらの作曲家も不滅の名曲を数多く残しており、そのなかには私たちの馴染みの作品も少なくありません。バッハの「マタイ受難曲」やモーツァルトの交響曲《ジュピター》、ハイドンの交響曲《驚愕》などの名作があるなかで、ベートーヴェンの作品の偉大さは、これらの先輩とは少し意味が違うようです。

ベートーヴェンの作品は生きた社会と密接に結びついているところがあります。ベートーヴェンは自由な市民としてウィーンで活動し、ウィーンの町ではベートーヴェンはとても有名でした。一人の芸術家として、宮廷や教会のしきたりにとらわれることなく自由に創作し、自由に発言し、そしてその創作は貴族だけではなく、市民の人々の関心の的でした。ベートーヴェンは独特の風貌や性格でとても目立っていましたが、そのこととは別にウィーンの人々は皆、ベートーヴェンをとても誇りに思っていました。

ベートーヴェンはウィーンの社会の中で、自分が音楽家としてどのように振る舞わなければならないのかということを自覚していたように思います。たとえばバッハの末娘のレギーナ・

ズザンナ(1742-1809)が老境に入り困窮に瀕していることを知り、彼は「弦楽五重奏曲」(作品29)の出版の収益を寄付し、ナポレオン戦争の時期には、ハーナウ戦役傷病兵のための救援資金調達慈善演奏会で「交響曲第７番」(作品92)と「ウェリントンの勝利」(作品91)を初演しており、これらの作品は聴衆の大喝采を受けています。このような音楽家はこれまでにないタイプでした。

人々に直接に訴えかける力という点で、ベートーヴェンの作品は強い影響力をもっていました。その意味ではベートーヴェンは、他の作曲家よりもどこか市民と近い位置にあったように思います。人々がベートーヴェンに偉大さを実感するのは、彼の作品が私たちの感覚に直接に訴えかけてくるところにあったのかもしれません。それを象徴するのが「交響曲第９番《合唱付き》」(作品125)でしょう。年末になると全国で、プロ、アマチュアを問わず数多くの合唱団がこの作品を演奏します。そして合唱を通して「偉大さ」を実感しているのではないでしょうか。

### Q 「楽聖」と呼ばれているのはなぜ？

「楽聖」というのは音楽の聖人という意味です。聖人はキリスト教の位の高い聖職者(お坊さん)のことを指します。しかし、ベートーヴェンはお坊さんではありません。作曲家の中には教会で活躍した人も音楽の歴史には数多くおりますが、「楽聖」という場合はそういう音楽家のことを意味しているのではなさそうです。

偉大な音楽家が「楽聖」として尊敬されるようになったのは19世紀に入ってからで、ロマン主義がとても大きな役割を果たしました。空想や幻想やメルヘンを題材とした文学や絵画がこのころから盛んになり、そのなかで芸術作品がとても神々しいものとして高い評価を受けました。そして芸術家は、天から遣わされた偉大な才能であるとして特別に高い尊敬を受けるようになります。そのもっとも重要なロマン主義者が、判事であり作家で、音楽評論家で、作曲家でもあった、エルンスト・テオドール・ホフマンです。ホフマンはベートーヴェンのことを最初のロマン派の音楽家と呼んでいます。

このような思潮が背景になり、ベートーヴェンに対して「音楽の聖人」という特別の見方がされるようになりました。18世紀では音楽家は教会や宮廷の使用人であったのに対して、19世紀になるとベートーヴェンはこのような特別の評価を与えられました。面白いことにすべての作曲家が楽聖になったわけではなく、シューベルトにはそのような評価は与えられておりません。19世紀に描かれたゲゼルシャープ画の「ベートーヴェンの誕生」は、ベートーヴェンの誕生をキリストの誕生になぞらえたデザインになっています。ベートーヴェンを聖人として敬う傾向は、苦難に打ち勝ち、崇高な芸術を私たちに残した偉人として、その後の19世紀の伝記文学のなかでさまざまな形で描かれました。

### Q 音楽史上でベートーヴェンが果たした役割は？

近代の音楽の歴史において、ベートーヴェン以前とベートーヴェン以後は、作曲家の創作の姿勢や創作の大きな節目になっています。ベートーヴェンはバッハも深く研究し、古典派の音楽をまとめ上げ、その後のロマン派の音楽の土台を築いたと言っても過言ではありません。ベートーヴェンの32曲のピアノ・ソナタや９曲の交響曲には、それまでハイドンやモーツァルトが培ってきた伝統を吸収し、彼自身の表現でまとめ上げました。さまざまな表現法や作曲技巧、それに多様で多彩な感性がこれらの作品に集約されています。そして、たんに吸収するだけではなく、ベートーヴェンは一作ごとに新しい世界を切り開いていきました。

## 人間・ベートーヴェン

### Q 引越し好き、変わり者……たくさんのエピソードがあるけれど、実際はどんな人？

ベートーヴェンは少年時代からとても誇りが高く個性の強い人物だったようです。ベートーヴェンの祖父はベートーヴェンと同姓同名で、ボンの宮廷楽長でした。ベートーヴェンはこの祖父のことをとても尊敬していました。その一方で、酒乱で家庭を顧みない父ヨハンにはとても強い反感をもち、彼は家庭を守るために父親を退職させて、ベートーヴェンが年金の受取人となることまでも行っています。

とても自身の主張を曲げない性格で、理不尽だと思ったときは相手が貴族であろうとも遠慮することなく決然とした態度をとりました。その一例が、ベートーヴェンがウィーンに移り住んだときに最初に手を差し伸べたリヒノフスキー侯爵とのことです。侯爵はベートーヴェンに住まいを提供したり、ベートーヴェンの音楽活動を支援し、年金まで提供しました。しかし、ナポレオン戦争のときにウィーンに進軍したフランス兵の

1787年にモーツァルトを訪ねたベートーヴェンがピアノを弾く様子

前で演奏をするように侯爵は求めましたが、ベートーヴェンは理不尽と思い、雨の中、侯爵のもとを飛び出しました。また、同じくベートーヴェンの支援者であったフリース伯爵に「弦楽五重奏曲」(作品29)を献呈しましたが、フリース伯爵はこの作品を出版したいという出版社からの申し出を受けて、出版社にベートーヴェンに断って出版をしてほしいと言い渡しました。ベートーヴェンは別の出版社からの出版を考えており、理不尽だと思って裁判に訴えました。当時は作品の献呈を受けた場合、被献呈者は作品を独占的に使用する権利を持っており、またフリース伯爵は出版社にベートーヴェンにその旨を断ってから出版してほしいと言っていたために、裁判でベートーヴェンは敗訴しています。

裁判との関連では、ベートーヴェンは亡くなった弟カールの息子の親権をめぐって、弟の妻と裁判で争います。ベートーヴェンは甥をとてもかわいがり、どうしても自分の子としたかったようです。彼は何度も裁判に臨み、ついに親権を勝ち取ります。しかし、甥は弟カールの形見の時計を質に入れてピストルを購入し、それで自殺を図ります。運よく命はとりとめますが、ベートーヴェンはとても苦悩したようです。ベートーヴェンは亡くなるときに全財産をこの甥に相続させています。

ベートーヴェンの人物像を物語るエピソードとして、恋愛があります。ベートーヴェンは作曲についても恋愛についても全力投球でした。ベートーヴェンはいつも恋をしていたと言われるほどに、とくに貴族の女性に愛を捧げました。「不滅の恋人」宛の熱烈なラブレターはとても有名です。その文面は本当に心の底から純粋に愛を捧げている内容で、心打たれます。この「不滅の恋人」は今日の研究ではアントーニエ・ブレンターノとされています。そのほか、ヨゼフィーネ・ブルンスヴィックへのラブレターも熱烈です。これほど強い愛の言葉を表明した作曲家はほかにはいなかったのではないでしょうか。

この一途さは作曲にも通じています。一つの作品を仕上げるまで、ベートーヴェンは数多くのスケッチを書き、推敲に推敲を重ねてまさに一途に創作に没頭しました。この集中力と純粋さは他の追随を許さないところがあります。一切、妥協はすることなく、自分の理想とするものが実現するまで深く追求する姿勢こそがベートーヴェンの真骨頂でしょう。

ベートーヴェンは本当にさまざまな側面をもった音楽家でした。強気で自己主張を通す一面、愛する女性への献身的な姿勢、理想を目指す創作態度、とりわけルドルフ大公に代表される恩人への限りない尊敬の念などの側面の他に、神への祈りも彼の人物の一面を表しています。ベートーヴェンと神様は似つかわしくないように見えますが、とくに晩年になって体調が思わしくなくなると、創作を続けることへの神への感謝が語られるようになります。「弦楽四重奏曲第15番」(作品132)の第３楽章は、「リディア旋法による、病より癒えたる者の神への聖なる感謝の歌」と記され、「ミサ・ソレムニス」(作品123)の「アニュス・デイ」の「我らに平安を与えたまえ」はまさにベートーヴェンの祈りの音楽です。

## ベートーヴェンが遺したもの

### Q 影響を受けた後世の音楽家は？

ベートーヴェンはバッハと並んで、後世の音楽家にとても強い影響を及ぼしました。その後の作曲家にとってベートーヴェンは理想であり、決して模倣することの出来ない独自で崇高な世界です。ベートーヴェンと同じ時期にウィーンで活躍したシューベルトは早い時期からベートーヴェンの影響を受けていました。その後、ベートーヴェンから一時離れますが、晩年ふたたびベートーヴェンを深く研究して、傑作を残しました。彼は臨終の床に就いていたベートーヴェンを見舞い、とても強い感動をおぼえ、シューベルトは亡くなるときにベートーヴェンの隣に埋葬してほしいと語っていました。その後、メンデルスゾーンやシューマン、リスト、ヴァーグナー、ブラームスなど、ドイツ語圏の作曲家はみなベートーヴェンを理想としていました。メンデルスゾーンの初期の３作の「ピアノ四重奏曲」(作品１，２，３)はベートーヴェンを模範としており、「弦楽四重奏曲第２番」(作品13)ではベートーヴェンの「ピアノ・ソナタ第17番《テンペスト》」(作品31-2)の第１楽章のレチタティーヴォの動機が借用されています。

シューマンもベートーヴェンから強い影響を受けました。ピアノ独奏のための「幻想曲」(作品17)の第１楽章の主要主題

は、ベートーヴェンの連作歌曲集「遥かなる恋人によせる」(作品98)の第６曲の旋律に基づいています。またこの作品の第２楽章はベートーヴェンの「ピアノ・ソナタ第28番」(作品101)の第２楽章に影響を受けています。「弦楽四重奏曲第３番」(作品41-3)の第１楽章は、ベートーヴェンの「ピアノ・ソナタ第18番」(作品31-3)の第１楽章の主題の動機を借用しています。

リストは、ベートーヴェンの全交響曲をピアノ独奏用に編曲し、ベートーヴェンの創作法に深く通じており、それを土台に新たな創作に取り組みました。ブラームスはもっとも直接的にベートーヴェンの影響を受けた作曲家で、1853年にシューマンを訪問した際に、シューマンの前で演奏した「ピアノ・ソナタ第１番」(作品１)の主題は、ベートーヴェンの「ピアノ・ソナタ第29番《ハンマークラヴィーア》」(作品106)第１楽章の主題を借用し、「ピアノ・ソナタ第３番」(作品５)ではベートーヴェンの「ピアノ・ソナタ第23番《熱情》」(作品57)の第１楽章の動機をもちいています。ブラームスはハンブルクに住んでいた若いころからピアニストとして盛んに演奏活動を行っており、ベートーヴェンのピアノ・ソナタを得意としていました。その後、ブラームスはベートーヴェンの弦楽四重奏曲や交響曲を深く研究して、自身の創作に反映させていきました。

ドイツ・ボンのベートーヴェンの生家

## Q 最新の研究で、解き明かされた作品は？

ベートーヴェンに関する情報で大きなトピックとなったのは、「交響曲第６番《田園》」です。1808年12月22日に「交響曲第５番《運命》」とともに初演された5楽章のこの作品は、各楽章に簡単な文章が添えられています。この作品は、1785年に作曲されたユスティン・ハインリヒ・クネヒトの「自然の音楽的描写」と題する交響曲と密接に結びついていることが明らかになりました。クネヒトのこの交響曲も５楽章で、各楽章にベートーヴェンと同様の、もっと長い説明文が付されています。たとえば第１楽章は、「美しき田舎と太陽は輝き、甘い西風そよぎ、小川は小さな谷間を横切って流れる。鳥たちは囀(さえず)り、渓流は高いところから轟音を立てて流れ落ちる。羊飼いが口笛を吹くと、羊たちは飛び跳ねる。羊飼いの恋人は優しい声を発する。」、嵐の到来する第３楽章では、「風を伴う雷雨は大きな音を立て、雨は大きな音を立てて打ち付け、木々の先端は音を立て、濁流が恐ろしい音を立てて水しぶきをたてる。」と記されています。さらに、動機についても関連性が見られ、ベートーヴェンはクネヒトのこの作品を参考にして、さらに充実したオーケストレーションと楽曲構成を施して《田園》を完成させたと考えられています。

**西原 稔(にしはら・みのる)**

山形県生まれ。東京藝術大学大学院博士課程満期修了。
現在、桐朋学園大学音楽学部教授。
18、19世紀を主対象に音楽社会史や音楽思想史を専攻。「音楽家の社会史」、「聖なるイメージの音楽」、「音楽史ほんとうの話」、「ブラームス」(以上、音楽之友社)、「ピアノの誕生」、「クラシック　名曲を生んだ恋物語」(以上、講談社)、「楽聖ベートーヴェンの誕生」(平凡社)、「クラシックでわかる世界史」、「ピアノ大陸ヨーロッパ」(以上、アルテスパブリッシング)などの著書のほかに、共著・共編で「ベートーヴェン事典」(東京書籍)、翻訳で「魔笛とウィーン」(平凡社)、監訳・共訳で「ルル」、「金色のソナタ」(以上、音楽之友社)、「オペラ事典」、「ベートーヴェン事典」(以上、平凡社)などがある。

Kyogei Presents

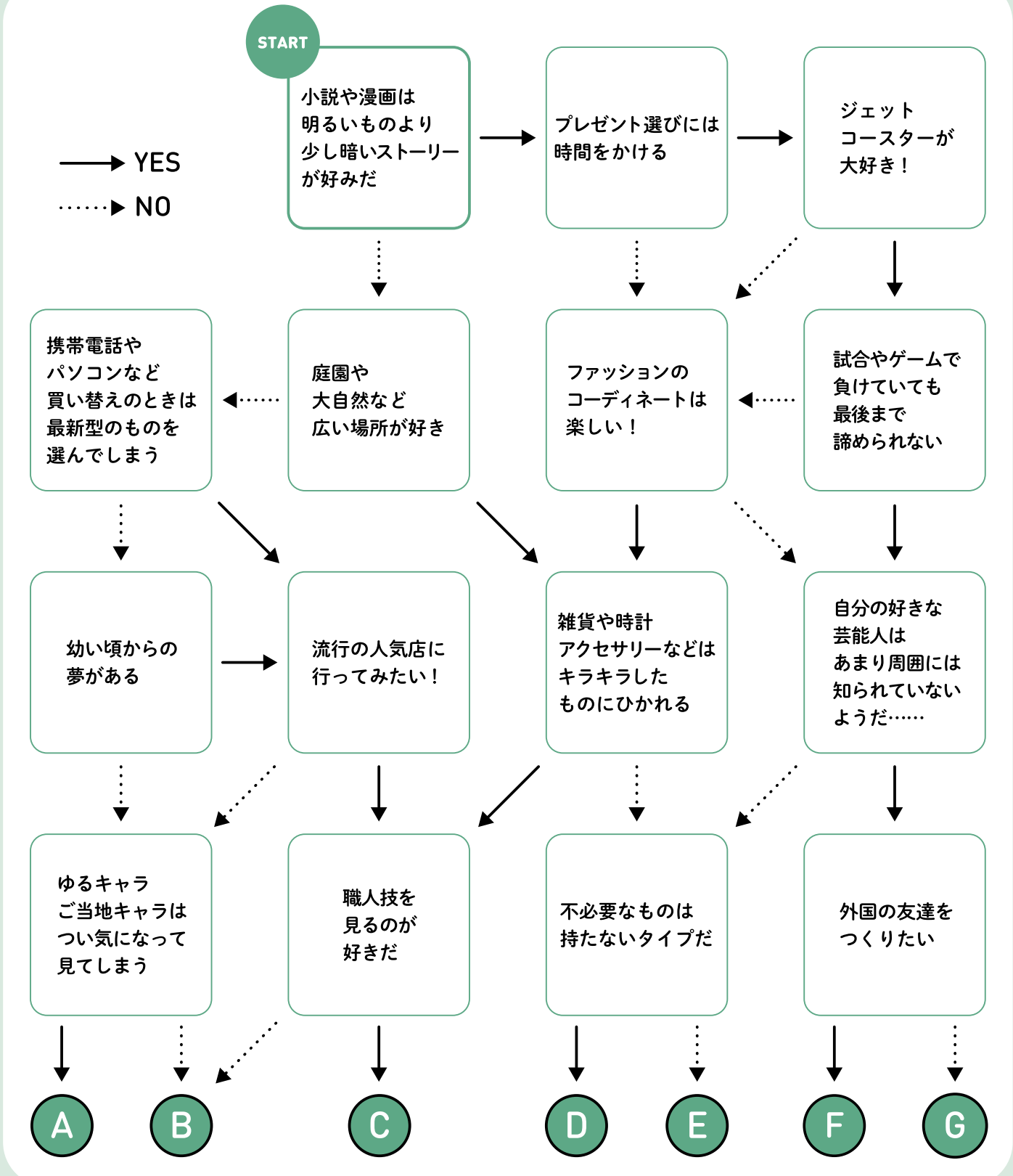
# 音楽診断

第8回

## ベートーヴェンのおすすめ名曲編

『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第8弾。今回は2020年のベートーヴェン生誕250周年を記念して、ベートーヴェンが書き上げた7つの名曲から、あなたにおすすめの作品をご紹介します。

監修・解説＝西原 稔
Text＝Minoru Nishihara



あなたのタイプとおすすめは？

社交的で朗らかなムードメーカー

## A 『ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス第２番』ヘ長調（作曲年：1798年）

ヴァイオリンと管弦楽のための作品で、1798年に作曲されました。ヴァイオリン独奏で奏されるアダージョ・カンタービレの楽想はとても愛らしく美しい情緒に満ちています。作品は小ロンド形式で書かれ、間に２つの中間主題の部分を挟みます。ヴァイオリンの奏する細やかなパッセージがとても魅力的です。『ロマンス第１番』ト長調も美しい作品で知られています。

視野が広くリーダーの資質をもつ人

## B 『交響曲第７番』（初演：1813年／ウィーン）

この交響曲が初演された1813年はナポレオン戦争の最後の激戦のさなかでした。これが初演されたのは「ハーナウ戦役傷病兵のための救援資金調達慈善演奏会」でした。この初演は大成功で、とくに第２楽章のアレグレットは繰り返し演奏を求められるほどでした。この楽章は同じリズムを繰り返しながら、次第に楽器の数を増やし、壮大な音楽へと発展していきます。

本質をとらえる芸術家タイプ

## C 『ピアノ協奏曲第５番《皇帝》』（初演：1811年／ライプツィヒ、ゲヴァントハウス）

1811年に初演されたベートーヴェンの最後のピアノ協奏曲です。ピアノ独奏の雄大なカデンツァ（技巧的な独奏）で開始し、その後のロマン派のピアノ協奏曲に大きな影響を与えました。第１楽章は変ホ長調の輝かしい調で開始し、第２楽章はロ長調の沈んだ調が用いられているのも特色です。そして、第２楽章の最後の部分はそのまま連続して第３楽章に入ります。

洞察力の鋭い研究者タイプ

## D 『ピアノ・ソナタ第23番《熱情》』（作曲年：1804年～1805年）

1805年、ベートーヴェンは寄贈を受けたフランスのエラール社の新型ピアノを用いて完成したのがこのソナタです。これまでのウィーンのピアノ（はね上げ式）とは異なる、現代のピアノと同じ突き上げ式の打弦装置のピアノで、高い音域が５度広くなっています。ベートーヴェンは第１楽章ではリピート記号を廃するなど、ソナタ形式の大きな革新を行いました。

柔軟性をもち前進するバランス型

## E 『交響曲第９番《合唱付き》』（初演：1824年／ウィーン、ケルントナートーア劇場）

1824年に初演されたベートーヴェンの最後の交響曲で、第４楽章は文豪シラーの詩に作曲した合唱になっています。合唱付きの交響曲の最初の作品で、第４楽章の最初の部分にそれまでの３つの楽章の主題が再登場します。人間はみな友人であると歌うこの作品は、ベートーヴェンの理想主義をよく表しています。作品は４人の独唱者、合唱、オーケストラで演奏されます。

思考力と行動力を兼ね備えた革新者

## F 『弦楽四重奏曲《ラズモフスキー》』（作曲年：1806年）

ラズモフスキーはウィーン駐在のロシアの大使で、音楽愛好家でした。1806年に作曲され３曲からなっています。ベートーヴェンはそれぞれの作品にロシアの民謡を取り入れました。以前の初期の弦楽四重奏曲とは異なり、主題が入念に組み立てられ、素晴らしい傑作にまとめ上げられています。とくに第３番の第４楽章はとても壮大なフーガになっています。

集中力が高く信念をもった大器晩成型

## G 『ミサ・ソレムニス』（初演：1824年／サンクトペテルブルク）

ベートーヴェンの最大の支援者は皇帝の弟のルドルフ大公でした。大公が大司教に就任することを祝って作曲が開始されましたが、就任式に作曲が間に合いませんでした。とても規模の大きなミサ曲で、最後の「アニュス・デイ（神の子羊）」の「我らに平安を与えたまえ」の合唱は感動的です。『交響曲第９番』の初演時に、抜粋した形でウィーン初演が行われました。

**西原 稔（音楽学者）**

山形県生まれ。東京藝術大学大学院博士課程満期修了。現在、桐朋学園大学音楽学部教授。18、19世紀を主対象に音楽社会史や音楽思想史を専攻。「音楽家の社会史」、「聖なるイメージの音楽」（以上、音楽之友社）、「ピアノの誕生」、「クラシック　名曲を生んだ恋物語」（以上、講談社）、「楽聖ベートーヴェンの誕生」（平凡社）などの著書のほかに、共著・共編で「ベートーヴェン事典」（東京書籍）、翻訳で「魔笛とウィーン」（平凡社）などがある。

※このほかの著書はp.35をご参照ください。

イラストレーション：こばやしみさこ

# Information

2020年に予定されている主な研究大会やイベントをご紹介します。

## 研究大会

**【ご案内】本ページでご紹介しておりました研究大会は全て開催中止となりました。**

## 10月 October

### 2日(金) 開催中止

※本年度は「紙上発表」に変更になりました。

**第61回 九州音楽教育研究大会**
**福岡県大会 北九州大会**
**北九州芸術劇場大ホール 他**

〈大会主題〉
心が動き、つながり、広がる、豊かな音楽の世界

［問い合わせ］
北九州市立小森江西小学校 校長 倉本京子
〒800-0005 福岡県北九州市門司区羽山1丁目12番1号
TEL 093-381-5538／FAX 093-381-5539
komorienishi-e@kita9.ed.jp

## 11月 November

### 5日(木)、6日(金) 開催中止

**令和２年度 全日本音楽教育研究会全国大会**
**高等学校部会大会 茨城大会**
**ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)**

〈大会主題〉
音楽でつながる人と心 ～生涯にわたって～

［問い合わせ］
令和２年度全日本音楽教育研究会全国大会
高等学校部会 茨城大会 事務局
茨城県立水戸第三高等学校
村田孝夫(茨城県高等学校教育研究会音楽部事務局長)
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸2-7-27
TEL 029-224-2044／FAX 029-225-4524

### 6日(金) 開催中止

**2020年度 全日本音楽教育研究会全国大会**
**(小・中学校部会大会) 群馬大会**
**第62回関東音楽教育研究会 群馬大会**
**第55回群馬県小・中学校音楽教育研究大会 高崎大会**
**群馬音楽センター 他**

〈大会主題〉
心ふれあう 豊かなひびき

［問い合わせ］
全日本音楽教育研究会全国大会 群馬大会 事務局
高崎市立金古小学校 校長 中島宣子
〒370-3511 群馬県高崎市金古町1271
TEL 027-373-2233／FAX 027-373-2420
kaneko-sho@ted.city.tasaki.gunma.jp

### 13日(金) 開催中止

**第62回 北海道音楽教育研究大会 札幌大会**
**札幌市教育文化会館 他**

〈大会主題〉
音楽のよさを分かち合い　確かな力を育む音楽教育

［問い合わせ］
第62回北海道音楽教育研究大会 札幌大会 事務局
札幌市立幌西小学校 校長 足立 教
〒064-0810 札幌市中央区南10条西17丁目1－1
TEL 011-561-2201／FAX011-551-6213
hokuonkyo@gmail.com

### 13日(金) 開催中止

**第51回 中国・四国音楽教育研究大会 岡山大会**
**岡山シンフォニーホール 他**

〈大会主題〉
未来につながるわたしと音楽

［問い合わせ］
事務局
岡山市立操南小学校 校長 岡本浩子
〒702-8006 岡山市中区藤崎45
TEL 086-277-7127／FAX 086-277-7128
sonans@city-okayama.ed.jp

## 19日(木)

**開催中止**

**第68回 東北音楽教育研究大会 宮城県仙台地区大会**
**第56回 宮城県音楽教育研究大会 仙台地区大会**

**七ヶ浜国際村 他**

〈大会主題〉

奏でよう　生きる喜びを　つながろう　音楽で

［問い合わせ］
七ヶ浜町立向洋中学校 主幹教諭 笠原洋平
〒985-0823 宮城県宮城郡七ヶ浜町遠山1-9-18
TEL 022-365-8151／FAX 022-365-3133

## 20日(金)

**開催中止**

**令和２年度 第62回 近畿音楽教育研究大会**
**奈良大会**

**奈良県橿原文化会館 他**

〈大会主題〉

響DO！(協働) ～感じる 深める 心の音色～

［問い合わせ］
第62回近畿音楽教育研究大会 奈良大会 事務局
奈良県立榛生昇陽高等学校 米田珠代
〒633-0241 奈良県宇陀市榛原下井足210
TEL 0745-82-0525／FAX 0745-82-7606

教育芸術社ホームページでは、この他の研究大会やイベントなどの情報も掲載しています。
https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/

— 新作合唱曲による公開講座 —

# Spring Seminar 2021

コンクール自由曲向けの新曲発表会「Spring Seminar 2021」を開催いたします。
同声・女声・混声の各２曲(全６曲)を作曲者、司会者、合唱団と学びます。
セミナー終了後「小学校の部」「中学校の部」「高等学校の部」に分かれて、Nコン課題曲のワンポイントレクチャーも行います。

- 日　時：2021年３月27日(土)
  12：45～17：20
  ※会場未定
  参加費：5,000円(高校生以下2,000円)
  資料・楽譜テキスト代を含む
- お問い合わせ：
  株式会社教育芸術社
  スプリングセミナー実行委員会
  TEL 03-3957-1168
  FAX 03-3957-1740
  https://www.kyogei.co.jp/

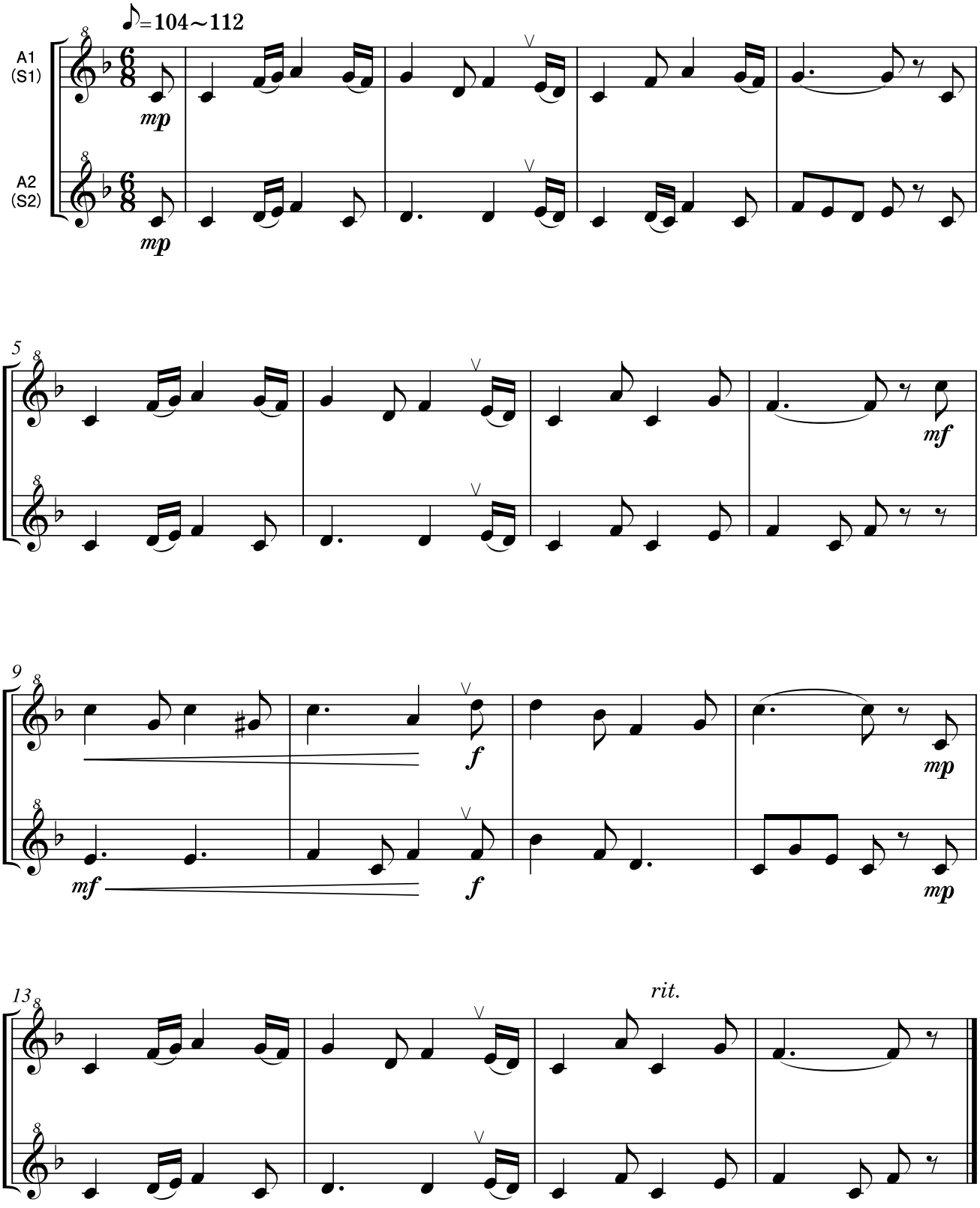
申込み受付は、2020年12月頃開始予定です。
内容は予告なしに変更となる場合がございます。
最新情報は、スプリングセミナーの
Facebookでも発信いたします。
https://fb.me/kgspringseminar

Icon made by Freepik from www.flaticon.com

# 浜辺の歌

作曲：成田為三　編曲：八木澤教司

A…アルト リコーダー
S…ソプラノ リコーダー



## 八木澤教司（やぎさわさとし）先生（編曲者）からのメッセージ

教科書に掲載されている『浜辺の歌』は、ピアノ伴奏が付いた独唱（斉唱）のための楽譜です。それを「リコーダーを加えて演奏できたら」というコンセプトで編曲しました。もちろん、リコーダーのみの二重奏、あるいはリコーダーとピアノ伴奏でも演奏できます。加えて、この楽譜はアルト リコーダー、ソプラノ リコーダーのどちらでも演奏できるように配慮しています。どのような組み合わせで演奏するかは皆さんの自由です。歌の有無を問わず、さまざまな演奏形態で楽しむことができるので、表現の幅を広げるのにきっと役立つことでしょう。ぜひ、いろいろな組み合わせにチャレンジして、皆さんだけの活用方法を見つけてくださいね！

## 演奏のポイント

原曲はあくまでも「歌」です。リコーダーで演奏するときも「歌心」を大切にしてください。ソプラノ リコーダーで演奏するときは低音域が多いので、しっかりと響かせるように練習しましょう。逆に、アルト リコーダーの場合は高音域を美しく響かせるよう意識しましょう。2ndパートは、メロディ（1stパート）と異なる動きをしている箇所をアピールするようにしてください。何より、お互いの呼吸を合わせてのびやかに、歌うように奏でましょう！

教育芸術社のホームページで
模範演奏の動画をご覧いただけます。

（演奏者：川端りさ、下田和直香）
https://www.kyogei.co.jp/data_room/vent/vol43_hamabe.html

## 編集後記

「14歳の時間は私の原点です」。そうおっしゃったのは、シンガーソングライターの松任谷由実さん。今を生きる「14歳」に伝えたいことを惜しみなく語っていただきました。また、人気狂言師、野村萬斎さんの「分からないことを喜びましょう」というポジティブな心構えは、私たちの背中をそっと押してくださいます。お二人からのさまざまなメッセージは、教育に関わる全ての方々に勇気を与えてくれるのではないでしょうか。教育芸術社の新しい教科書『中学生の音楽』の口絵にもご協力いただいています。

「授業者に訊く」では、音楽ユニット「アクアマリン」のミマスさん、現役教員であり作詞・作曲家でもある山崎朋子先生にご登場いただきました。生徒たちの生の声にもご注目ください。

ベートーヴェン生誕250周年を記念した特別企画では、現代の視点からその人物像に迫りました。音楽の授業にもご活用いただけましたら幸いです。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力を賜りました全ての方に、心より厚く御礼申し上げます。今後ともご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

**表紙・巻頭イラストレーション**
スズキタカノリ

**写真撮影**
島﨑信一（STUDIO S+PLUS）
田中聖太郎

**写真提供**
アフロ
ゲッティ イメージズ
PPS通信社
藤原道山
政川慎治
万作の会

**写真協力**
ヤマハ

**イラストレーション**
こばやしみさこ

**表紙デザイン・本文組版**
STORK

**音楽教育 ヴァン**

発行者　株式会社 教育芸術社（代表者 市川かおり）
〒171-0051　東京都豊島区長崎1-12-15
TEL. 03-3957-1175（代）
FAX. 03-3957-1174
https://www.kyogei.co.jp/
©2020 by KYOGEI Music Publishers. Ⓟ-20
本書を無断で複写・複製することは著作権法で禁じられております。

LOVE THE ORIGINAL
著作権のコピーはやめましょう

＊ヴァン＝“vent”はフランス語で「風」。新しい音楽教育の地平を切り開いていく願いを込めています。

## Recommend

### オリジナル合唱ピース

○2020年に発表予定の、クラス合唱や全校集会、コンクール自由曲向けの新曲。
【同声編107】すてきな友よ（アベタカヒロ 作曲）
【同声編108】いる（大熊崇子 作曲）
【女声編 60】夕暮 ―女声合唱とピアノのための―（土田豊貴 作曲）
【女声編 61】ふゆはたまもの（横山潤子 作曲）
【混声編108】ひとめぐり ―混声合唱とピアノのための―（三宅悠太 作曲）
【混声編109】冬と銀河ステーション 混声合唱とピアノのための（木下牧子 作曲）

○「授業者に訊く」でご登場いただいたお二人の先生の作品。
【混声編 96】おおいなる川 ～はるかな旅へ～（ミマス 作詞・作曲／富澤 裕 編曲）
【混声編107】幸せ／僕らの歌（山崎朋子 作詞・作曲）
●各定価（本体600円＋消費税）／B5判
○各曲の音源は、音楽配信サイトからのダウンロードや定額制聴き放題サービスでお聴きいただけます。

### 学級担任・音楽科の目指す
### 校内合唱コンクール成功への道

渡瀬昌治 著
○校内合唱コンクールを成功させるための基礎知識や練習方法など、指導に役立つ情報が盛りだくさん。その他、98曲の推薦曲、12校の実例のレポートも掲載。
●定価（本体2,000円＋消費税）／B5判／160ページ
●ISBN978-4-87788-813-8

### Chorus ONTA Vol.26

○混声合唱のためのパート練習用CD。
○収録曲：おおいなる川 ～はるかな旅へ～／僕らの夢を届けよう／見上げてごらん夜の星を（三宅悠太編曲）／きらきら／はなさくら／栄光の架橋（相澤直人編曲）／あなたに届けよう／ぜんぶ／さよならの前に／花の名前／Gifts
●定価（本体12,000円＋消費税）／４枚組
●KGO-1189～1192

### Chorus ONTA Vol.27

○混声合唱のためのパート練習用CD。
○収録曲：春はいま／モンシロチョウ／Happiness／道の途中で／明日への序奏／君の隣にいたいから／花がほほえむ／リアルビクトリー／この町が好き／忘れることなんかできない／夕陽
●定価（本体12,000円＋消費税）／４枚組
●KGO-1193～1196